

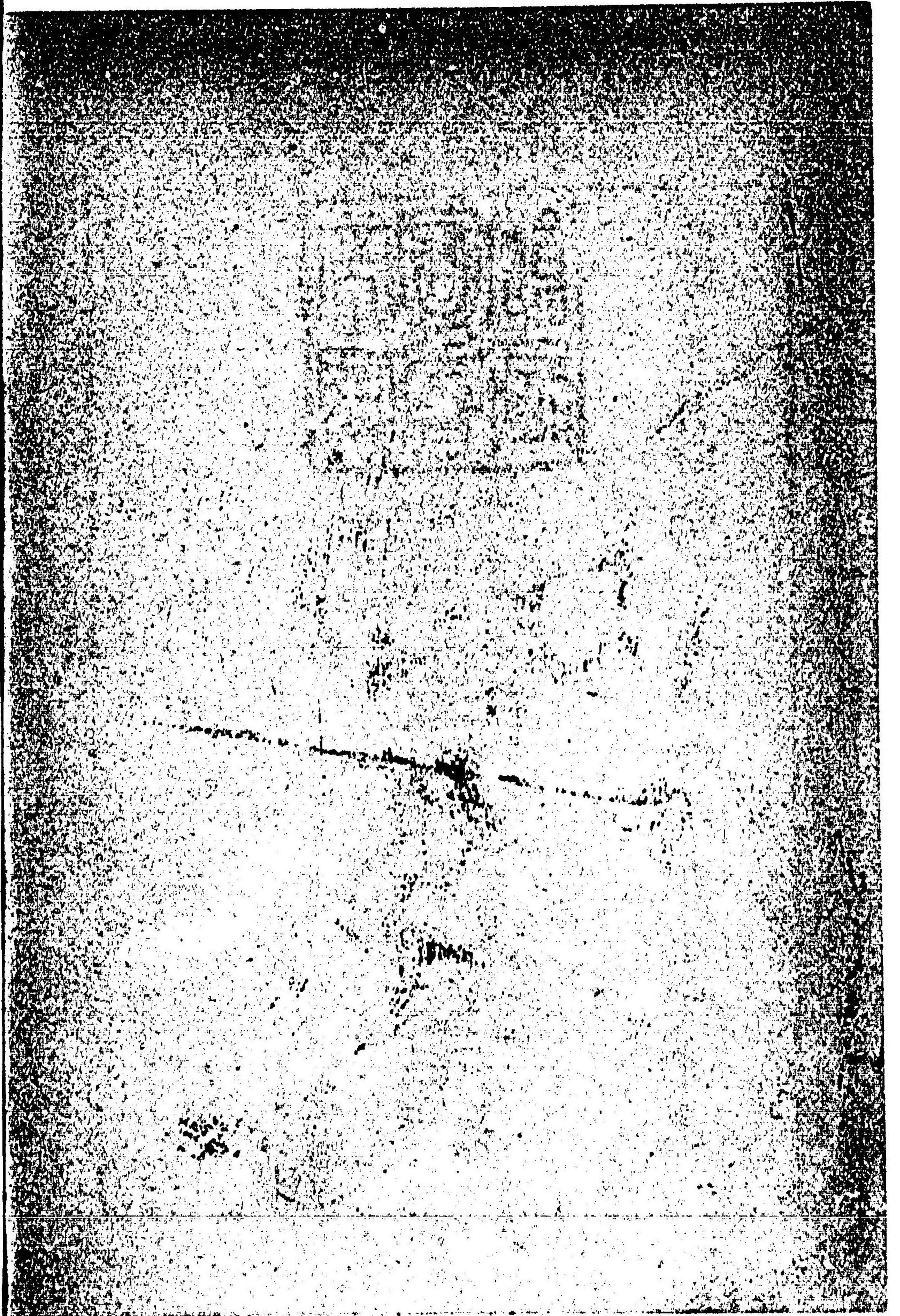
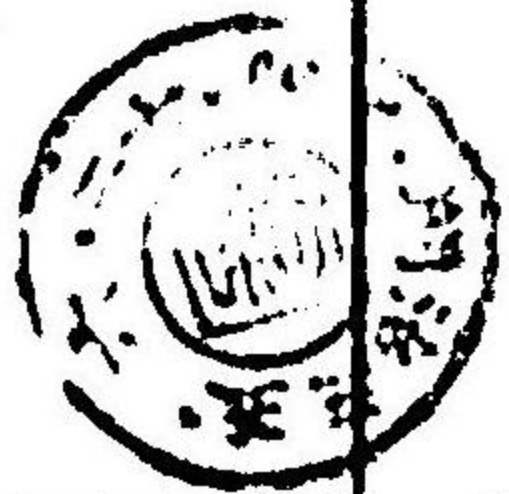
明治三十三年三月廿六日
文部省檢定
中學及師範學校地理教科書

理學士 山上萬次郎 編著

外國部上

最新地理學教科書

明治三十五年訂正發兌
大日本圖書株式會社



序

最近地理學教科書日本之部上梓以來、未ダ三句ヲ經ズ、料ラザリキ、學友ノ稱賛ト、江湖ノ歡迎ト、斯クノ如ク其レ盛ナラントハ。コレ著者ノ固ヨリ敢テ當ラザル所ナリト雖モ、最近事實ノ訂正、教材ノ選擇、年ト共ニ常ニコレヲ新ラニスベキ著者ノ責任ハ、コレニヨリテ尙ホ益幾層ノ重キヲ致セリ。今本書外國之部ヲ公ニスルニ當リ、聊カ著者微意ノ存スル所ヲ明ラカニシ、以テ序ニ代フ。

明治三十五年二月一日

山上萬次郎謹ス

最近地理學教科書 外國之部上卷 目次

第一章 水陸の區分	一頁
一、概説	一
二、地球の區分	二
三、水陸の分布	三
四、陸の區分	三
五、水の區分	四
第二章 アシヤ	五
第一節 總論	五
六、位置	五
七、地勢	五
八、水誌	七
九、氣候	八
第二節 アシヤ洲中の獨立國	八

一〇、總説……………八

一一、シム……………一〇

一二、チボール、ブータン及びアフガニスタン……………一一

一三、ペルシア及びオスマン……………一二

第三節 韓國……………一三

一四、地文地理……………一三

一五、人文地理……………一三

一六、地方誌……………一六

第四節 清國……………一九

一七、總論……………一九

一八、地勢……………二〇

一九、水誌……………二一

二〇、氣候……………二二

二一、人民……………二三

二二、政治……………二五

二三、産業……………二七

二四、交通……………二九

二五、地方誌……………三一

第五節 アジア洲中の附屬國……………三六

二六、總説……………三六

二七、支那に於ける占領地……………三七

二八、北部アジア……………四〇

二九、南部アジア……………四五

三〇、西部アジア……………五三

第三章 オセアニア……………五五

第一節 オーストラリア……………五五

三一、總説……………五五

三二、地文地理……………五六

三三、人文地理……………五八

三四、各州誌……………六三

第二節 マツイシア 六七

三五、総説 六七

三六、各島誌 六八

第三節 ポリチシア 六八

三七、総説 六九

三八、メラチシア 七〇

三九、ミクロチシア 七三

四〇、ポリチシア本部 七四

四一、ニューゼーランド 七六

最近地理學教科書 外國之部上卷 目次終

最近地理學教科書 外國之部上卷 挿圖畫目錄

陸半球 水半球 三二	○ツレース氏線 四七
○アジアの山脈 六	○印度の地勢 四九
京城南大門 一七	○印度の鐵道 五二
黄河河口の變遷 二二	鴨嘴及びカンガル 六一
支那人の配布 二四	ニューゼーランド土人 七八
纏足と骨の畸形 二五	○印々附スルモノニ Mill—The International Geogra- phyニ関ル 七八
○香港附近の讓與地方 三六	
香港及ヒ澳門附近 三七	
旅順口及ヒ大連灣 三八	
威海衛 三九	
膠州灣 四〇	
シベリアの火橋 四二	
シベリア大鐵道の東部 四三	

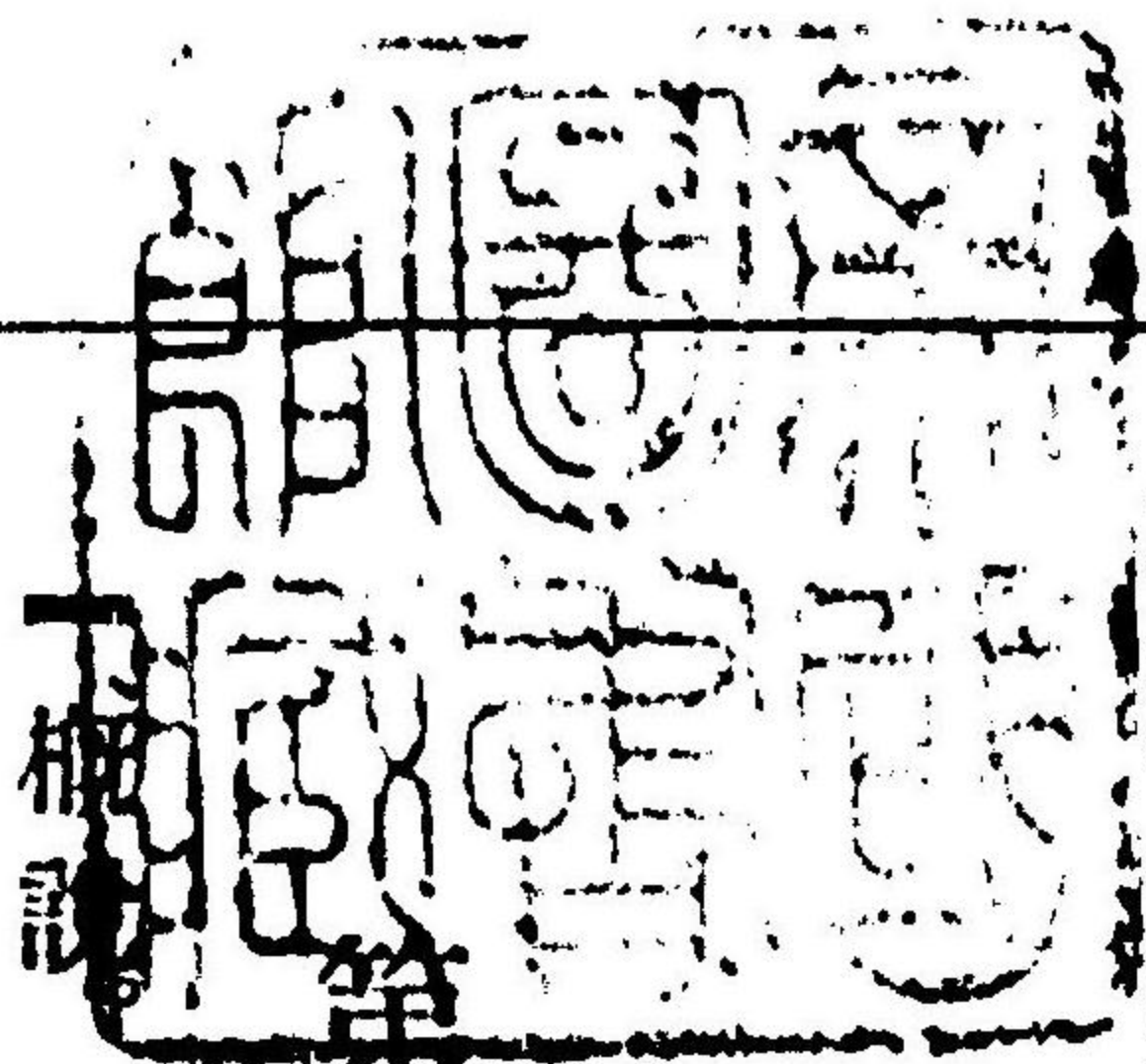
最近地理學教科書、外國之部上卷、挿圖畫目錄、終。

最近地理學教科書

外國之部上卷

理學士 山上萬次郎著

第一章 水陸の區分



涯きりなき宇宙の間、無數の天體の中、一個の遊星あり、名づけて地球Earthと云ふ、これ吾人人類の棲息する所なり。廣き地表の上、多き邦土の中、一個の獨立國あり、稱して大日本Japanと云ふ、これ我が民族の割據する所なり。

更らに我が帝國の邦土を見るに、海國の名蓋し空しから

ず。大小數多の島嶼は其の陸部を組織し、廣狹幾多の海灣は其の領海を構成せり、然れども此の島嶼は地球全陸界の一小部にして、此の海灣は地球全水界の一小部たるに過ぎず。

斯くの如く地球の表面は陸と水とより成り、空氣は一樣にこれを包む、而して陸界・水界・氣界の相接する所は生物界の最も盛んなる部分なり。

二、地球の區分。

赤道によりて地球を南北に分つときは、北半球及び南半球となり、一子午線によりて地球を東西に分つときは、東半球及び西半球となる。南北兩半球は四季相反し、東西兩半球は晝夜相反す。

陸半球の極はロンドン附近にあり



球半陸



球半水

三、水陸の分布。

地表上水陸の分布は一樣ならずして、水陸面積の比は凡そ三と一との如し。其の中陸は北半球に多く、南半球に少く、又東半球に多く、西半球に少し。而して一半球には陸を最も多く含ませしめ、他半球には水を最も多く含ませしめ、以て地球を水陸兩半球に分ち得べし。

四、陸の區分

陸は相連接せずして、大小數多の塊を成す、其の大なるものを大陸と云ひ、

Continent

小なるものを島と云ふ。島は其の主たる大陸の中に算入するを常とす、而して陸はこれを六大陸に區分す。アジア、ヨーロッパ、アフリカ、オーストラリアの四大陸は東半球にあり、北アメリカ、南アメリカの二大陸は西半球にあり、前の四大陸を總稱して東大陸と云ひ、後の二大陸を總稱して西大陸と云ふ。

五、水の區分。

水は互に連接して一の大塊を成す、然れども陸地の突出によりて自から大小數多の塊に分たる、其の大なるものを大洋と云ひ、小なるものを海又は灣(副洋)と云ふ、海及び灣は其の主たる大洋の中に算入するを常とし、隨て水は四個の大洋に區分せらる、太平洋、印度洋、大西洋、南大洋これなり。

第二章

アジア

Asia

第一節 總論

六、位置。

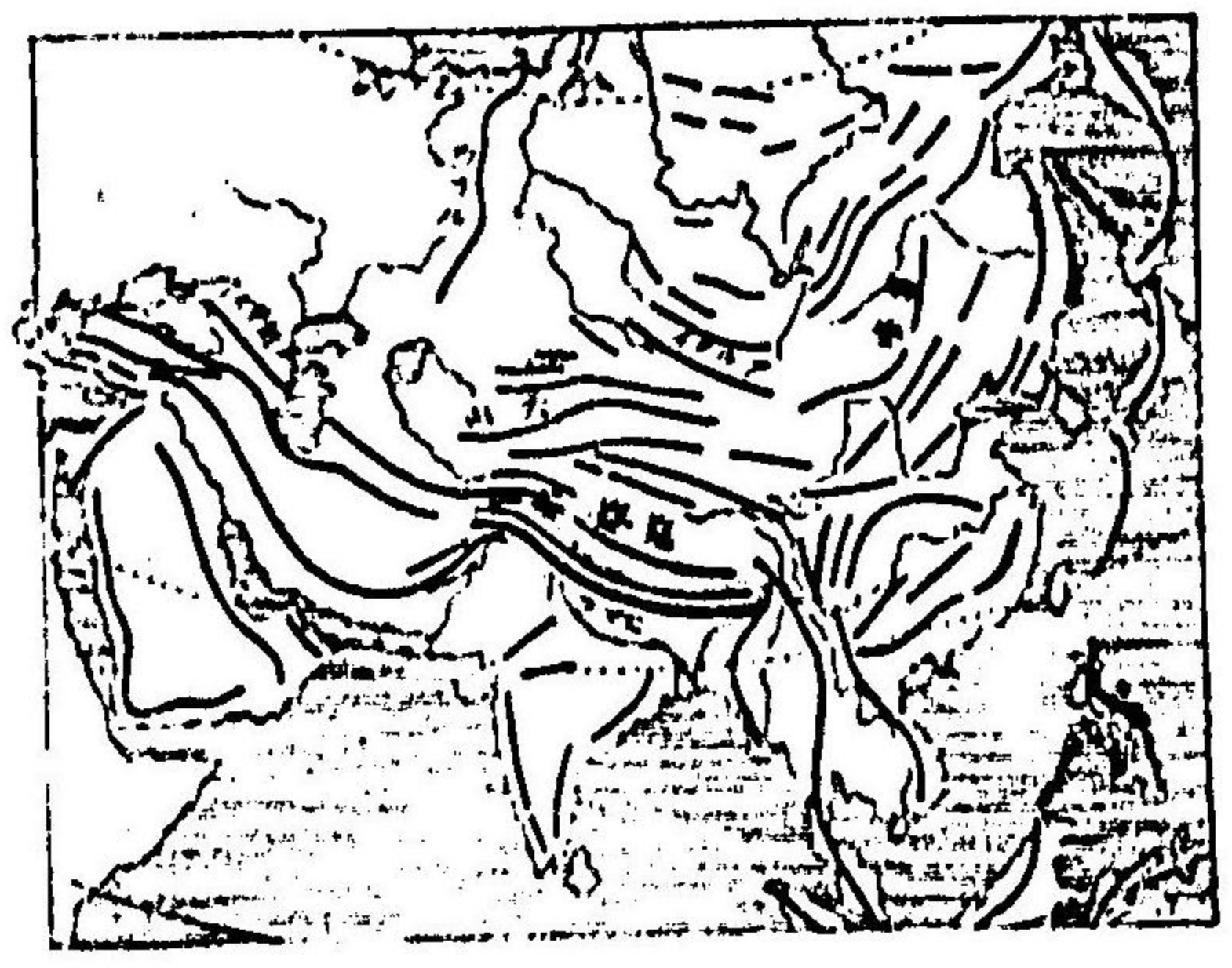
世界第一の大陸たるアジアの北端は遠く北極圏を超え、南端は殆んど赤道に達し、全土の位置は略ぼ北半球内に在り、又其の東端と西端とは時刻の差十一時間に及ぶ。

七、地勢。

アジアは地勢上左の四部に分る。
北方低地帯。世界第一のシベリア平原は其の大部を成す。

日本崑崙山系に其の餘波なり

中央高地帶。數多の山脈各陸東西に走り、其の間に高原を成す、其の中心にパミール高原あり、通稱を「世界の屋根」と云ひ、大山脈はこれより四方に向ふ。即ちヒマラヤ山系は南東に、崑崙山系は東方に、天山山系は北東に、Himalaya ヒマラヤ山系は西方に走り、イラン高原、Iran イラン高原、Hindu Koshi ヒンドゥーコシ山脈等は其の間に存し、Altai アルタイ山系は其の北境を限り、Khin-Khan キンハン山系は其の東部に連る。



アソアの山脈

ヒマラヤ山系中には世界第一の高峯あり、又西藏高原は世界第一の高原なり。
南部高原帶。アラビア、Dekhan デカン

の二高原こゝにあり、アラビヤ高原の北西隅なる死海の近傍は、世界第一の窪地なり。

東部火山帶。世界第一の火山脈はカムチャツカ半島より日本を經、マライ群島を通じ、以てアジア大陸の東縁を圍む。

八、水誌。

アジア河流の水源は地勢上概ね中央高地にあり、河流は概ね其の縁邊の山脈を横斷し、四方に向ふ、又雙子河、及び大陸河の多きは此の大陸の特色なり。氣候風は雨を來たすが故に、河川は大抵水量に乏しからず。

鹹湖にはヨーロッパとの境に世界第一の裏海あり、其の以東には、Caspian Sea 古内海の遺跡たる鹹湖多くして、皆大陸河の灌域にあり。アジアの淡水湖には大なるもの少し。

九、氣候。

アジアは多くの緯度に亘り、大なる面積を占め、地勢の高
 低一ならざれば、最も氣候の變化に富めり。此の大陸は面
 積大なるを以て、海洋氣候は其の一部のみに存す。又内部
 の大陸氣候は印度洋に氣候風を起すの本となり、印度の一
 部に世界最多の雨量を生ずるに至れり。又北部には世界
 最寒の地ありて、南部には比類少き熱地あり。

中央アシア
 の無雨區域
 は甚だ廣大
 なり

ロシア
 大陸
 Enns

第二節 アジア洲中の獨立國

一〇、總說。

アジアの地勢上より見れば、ヨーロッパは其一半島たるに

過ぎず、然るに邦制上より見れば、現今のアジアは却てヨー
 ロッパの附屬となり了らんとす。唯多少の獨立國を存すれ
 ども、我が國を除くの外、國勢の盛んなるものなし。今各部
 に就てこれを畧説すべし。

東部アジア。日韓清の三獨立國より成る。

北部アジア。すべてロシア領なり。

南部アジア。獨立國にはシム王国の外、チゴール及びブ
 ータンの二酋長國あるのみ、其の他は主としてイギリス領
 及びフランス領なり。

西部アジア。獨立國にはベルシア王国の外、アフガニス
 タン及びオースマンの二酋長國あるのみ、其の他は主として
 イギリス領及びトルコ領なり。

今アジアの獨立國中、東部アジアに於けるものを除き、左にこれを畧説すべし。

一、シヤム。

印度支那の中部を占め、シヤム灣の北に位す。其の面積

は我が國より少しく大にして、國の大部はメナム河の灌域

に屬し、米及びチーク材に富み、象は家畜として用ひらる。

人口凡そ五百萬、外に支那人凡そ三四百萬あり、國人椰子

を噛み、齒黒く、口臭し。陸軍は常備兵五千、海軍は巡洋艦二

隻あるのみにして、輸出入額は凡そ六千萬圓なり。首府バ

ンコックは人口二十五萬を有し、メナム河に臨む、河口淺くし

て大船を容るゝこと能はざるは惜むべし。此の國は本邦

條約國の一にして、首府には我が公使館及び領事館の設け

あり。

一二、ネポール、ブータン及びアフガニスタン。

ネポール及びブータンの二國は共にヒマラヤ山系中に

位し、西藏と交通すれども、西洋諸國に對しては、鎖國主義を

取れり。アフガニスタンは印度の北西に位し、回教を信ず

る遊牧の民これに住し、カブールの酋長これを總轄す、此の

國はイギリス及びロシア領地の間に介在するを以て、屢二

國紛争の衝に當れり。

一三、ペルシア及びオスマン。

ペルシアはアフガニスタンの西方に位し、イラン高原の

大部を成し、山脈は其の縁を圍む。其の氣候は大陸性にし

て、砂漠多く、鹹湖に富む。人口凡そ九百萬、人民は回教を信

じ其の四分の一は遊牧の民なり、物産は穀物・絹・饅頭・阿片を重もなるものとす。此の國の政體は君主專制にして、君主の稱號をシャールと云ふ、兵力貿易共に盛んならずして、海軍は小汽船二隻あるのみ、首府をテヘランと云ふ。此の國の位置、北は裏海、南はペルシア灣に臨み、イギリス及びロシア兩國の勢力範圍に接し、極めて注意すべき關係を有す。

オーマンはペルシア灣を隔て、ペルシアの南に當れる獨立國にして、首府をマスカトと云ふ。

東部アジアの獨立國に就ては、我が國を省き、韓・清二國を左に列記すべし。

對馬の北端を距ること三十哩なり

朝鮮多島海高低潮面の差三十四尺に及ぶ
三寒四暖

第三節 韓國

Korea

一四、地文地理。

韓國は又朝鮮と通稱す、東部アジアの一半島にして、我が對馬より望見し得べし、面積は我が本州に殆んど等し。

長白山脈國の北境を限ぎり、これより大關嶺を派出し、少しく東側に偏して國土を縦貫す、隨て西側には大河多し。南西岸の島嶼に富めると、西岸の潮汐升降差大なるとは、此の國沿岸の特性なり。氣候は大陸性にして、冬季は河水氷結し、唯南部沿岸のみ稍溫和なり。

一五、人文地理。

人口凡そ五百萬、我が國よりも密度甚だ小にして、特に人口減少の傾向あり。上流の人は漢文を用ひ、他は諺文を用

ふ。普通の人民は沐浴せず、朝寝午睡を食り、門閭の別殿にして、奴隸の制尙ほ存す、上流は孔孟を口にするも、一般に妖教行はる。又厚葬の弊習久しく、墓地の地積大なるを以て、鐵道の敷設、鑛山の採掘等、利源の開發に故障少からず。

政體は君主專制なり、中央政府は内外度支、軍法、學農商工の七部衙門より成り、各衙門に大臣を置く、又各道には觀察使を置くも、中央政府の命令十分に行れはず、而して地方官賄賂を貪り、重税を課し、人民はこれが爲めに赤貧洗ふが如し。此の國は本邦條約國中、古昔より最も密接なる關係を有す。

秃山多し

動物界の天産には虎多し、林産は北部を除くの外殆んど無し。農産には大豆及び米多くして、盛んに我が國に輸出

す、但し政府は時々防殺の令を布くを以て、我が商人の損害少からず。鑛物には金及び鐵多く、各國争ひて、金鑛採掘の權を得たり、鐵は未だ採掘するに至らず。水産は豊富にして、其の漁利悉く我が國人の收むる所なり。

外國貿易は主として我が國とこれを行ひ、仁川釜山元山を重もなる開港場とし、城津浦馬山浦木浦群山浦鎮南浦平壤これに次ぐ。輸出入額は凡そ二千萬圓にして、主要なる輸出品は米、豆、生牛皮なり。

交通は近時少しく面目を改め、京仁鐵道は既に成り、京釜鐵道は着手中にして、何づれも我が國人の經營に係る。主要なる開港場と我が國北清及びウラジナストクとの航路は、日本郵船及び大阪商船の兩株式会社これを経営す。此

の國は河川の利多く、又外國へ電線を通ず。

一六、地方誌。

此の國は行政上もと八道に分ちしが、今は左の十三道に分つ。

京畿道	江原道	忠清北道	忠清南道
全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道
咸鏡北道	咸鏡南道	平安北道	平安南道
黃海道			

我が新潟と
畧は同緯度

中部(京畿、黃海、江原) 韓國の首府京城ソウルは本名を漢城と稱す、周圍は繞ぐらすに城壁を以てし、我が居留地には公使館及び領事館の設けあり、京仁鐵道及び漢江によりて交通の便あり、濟物浦は京城の西に位し、世に仁川と稱するは即ち Chemulpo

三南地方
牙山・成歡
豐島



京城南大門

これなり、此の地は京城の咽喉に當り、貿易最も盛にして、我が領事館の設けあり。江原道の沿岸は明太魚の捕獲盛にして、黃海道の沿海は大同江の泥流の爲めに黄色を呈す。

南部(忠清、全羅、慶尙) 忠清道は農産最も豊かなり、其の北西部は日清戦役の古跡多し。全羅道も亦農産に富み、群山浦には我が領事分館木浦には我が領事館の設けあり、南方には濟

州島横はり、其の北東に巨文島あり。慶尙道も亦た巨濟南
 Quelpart Port Hamilton
 海等の島嶼に富み、良港多し、就中馬山浦は朝鮮海峽及び韓
 國內部に對し、最も重要な位置を占む、我が領事館の設け
 あり。釜山浦は我が國に最も近く、居留人甚だ多くして、純
 然たる本邦市街を成す、我が領事館の設けあり。蔚山は同
 名の灣頭に位し、豐公征韓の役に名高し。

北部(咸鏡平安)。咸鏡道は韓國の北東部を占め、圖們江に
 よりて、シベリア及び清國に接す、東側に一大灣あり、プロ
 トン灣と云ふ、元山津は其の中にあり、砂金の輸出盛んにし
 て、我が領事館の設けあり、これより北東に當れる城津浦に
 は我が領事分館の設けあり。平安道は韓國の北西部を占
 め、鴨綠江によりて清國と境す、其の南部は大同江の灌域に

屬し、平壤は其の沿岸にあり、豐公征韓の役及び日清戰役に
 Pingyang
 其の名最も高し、此の地には我が領事分館の設けあり、又大
 同江の河口なる鎮南浦には我が領事館の設けあり。
 義州
 は鴨綠江の東岸に位し、滿洲に入るの要點を占む。

第四節 清國

China

一七、總論。

清國は又支那と通稱す、東部アジア及び中央アジアの殆
 んど全部を占め、面積凡そ七十一萬方里、我が國の二十六倍
 あり、南北凡そ九百里、東西凡そ一千三百里、韓國は其の一半
 島に外ならずして、我が國は其の沿岸の屬島たるが如き觀

あり。

此の國は行政上直省及び外藩に分れ、直省は二十二あり、其の中十八省は支那本部、東三省は滿洲、一省は新疆にして、又外藩は蒙古、青海、西藏なり。

一八、地勢。

ヒマラヤ山系は南西境を限り、崑崙山系との間に西藏高原を成し、其の北に天山山系あり、崑崙山系は延びて興安嶺となり、北西なるアルタイ山系との間にゴビ砂漠の高原を作る。支那本部の中央には南嶺、北嶺の二山脈ありて、揚子江の南北に連亘し、黄河及び揚子江の間には中原の平地あり。

沿岸の性質は揚子江河口以北と以南とに於て大差あり、

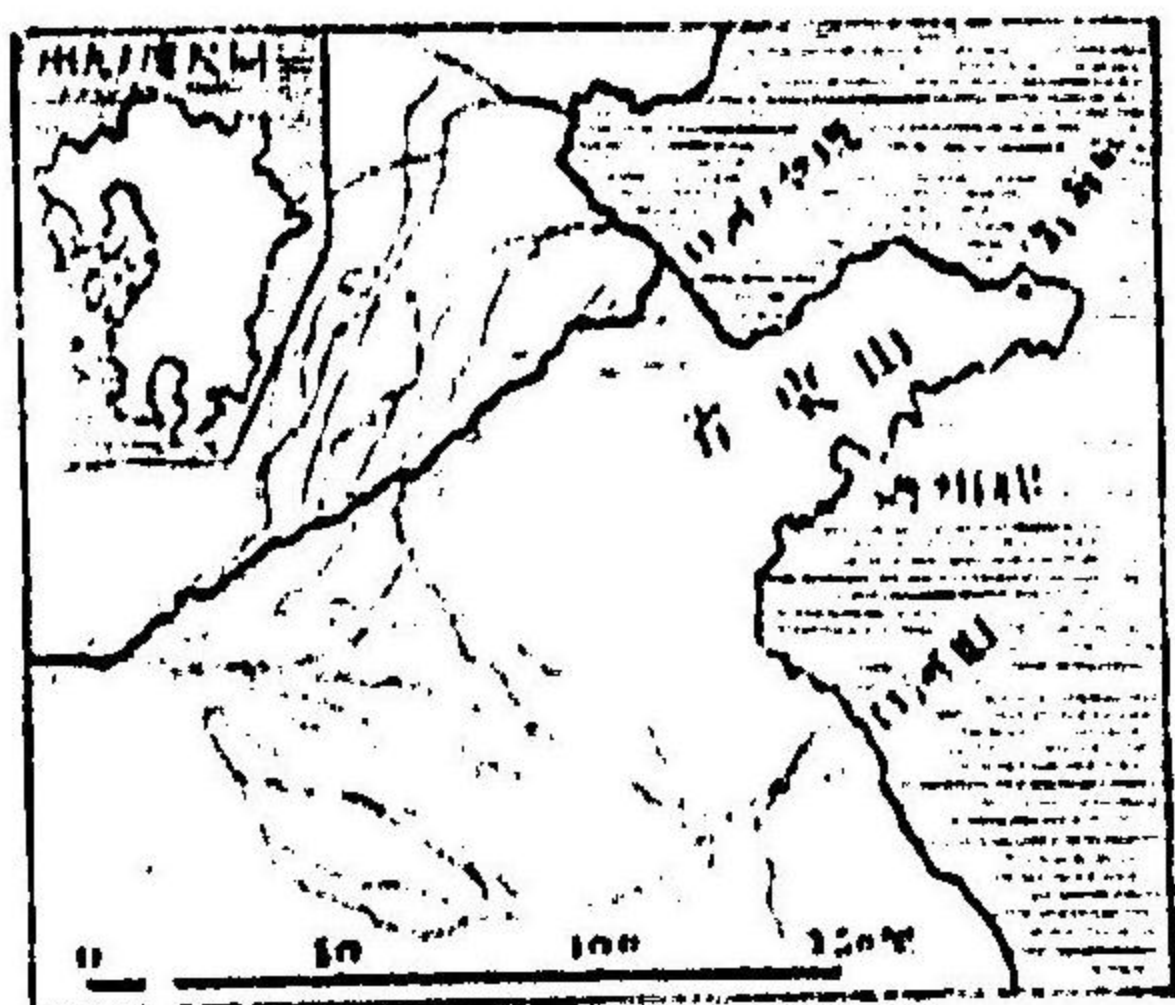
最北部には遼東、山東の二半島ありて、内に渤海を抱き、外は黄海に濱す、遼東半島の南岸には旅順口及び大連灣あり、山東半島の北岸には威海衛、南岸には膠州灣あり、皆他國の占有する所となれり。揚子江口以南は東海及び支那海の沿岸にして、島嶼に富み、出入の多きこと、以北の比にあらず、珠江の成せる三角江の東には香港あり、三角洲の端には澳門あり、雷州半島の東側に廣州灣あり、皆他國の占有する所となれり、而して海南島は雷州半島の南に横はる。これより以西はトンキン灣の沿岸に屬す。

一九、水誌。

西部にはタリム河、伊犁河の如き大陸河あれども、其の他は皆海に入る、其の中最も名あるものを黄河及び揚子江と

す。

黄河は單に河と稱し、其の水黄土を含みて常に濁り、河道の變遷甚しく、水害絶ゆることなし。揚子江は單に江と稱す。



黄河河口の變遷

の二湖は江に通じ、其の水量を調整す。

珠江は南清の大河なり、一に廣東河と稱す、其の三角江と三角洲とは甚だ大にして、沿岸には數多の開港場あり、其

し、又長江或は大江と稱す、長さ一千三百里、東大陸第一の大河にして、中流以下數百里の間大汽船を通じ、沿岸開港場の數も甚だ多く、下流は運河縱横に通じ、河口には崇明島横はる、支流に漢江あり、又洞庭及び鄱陽

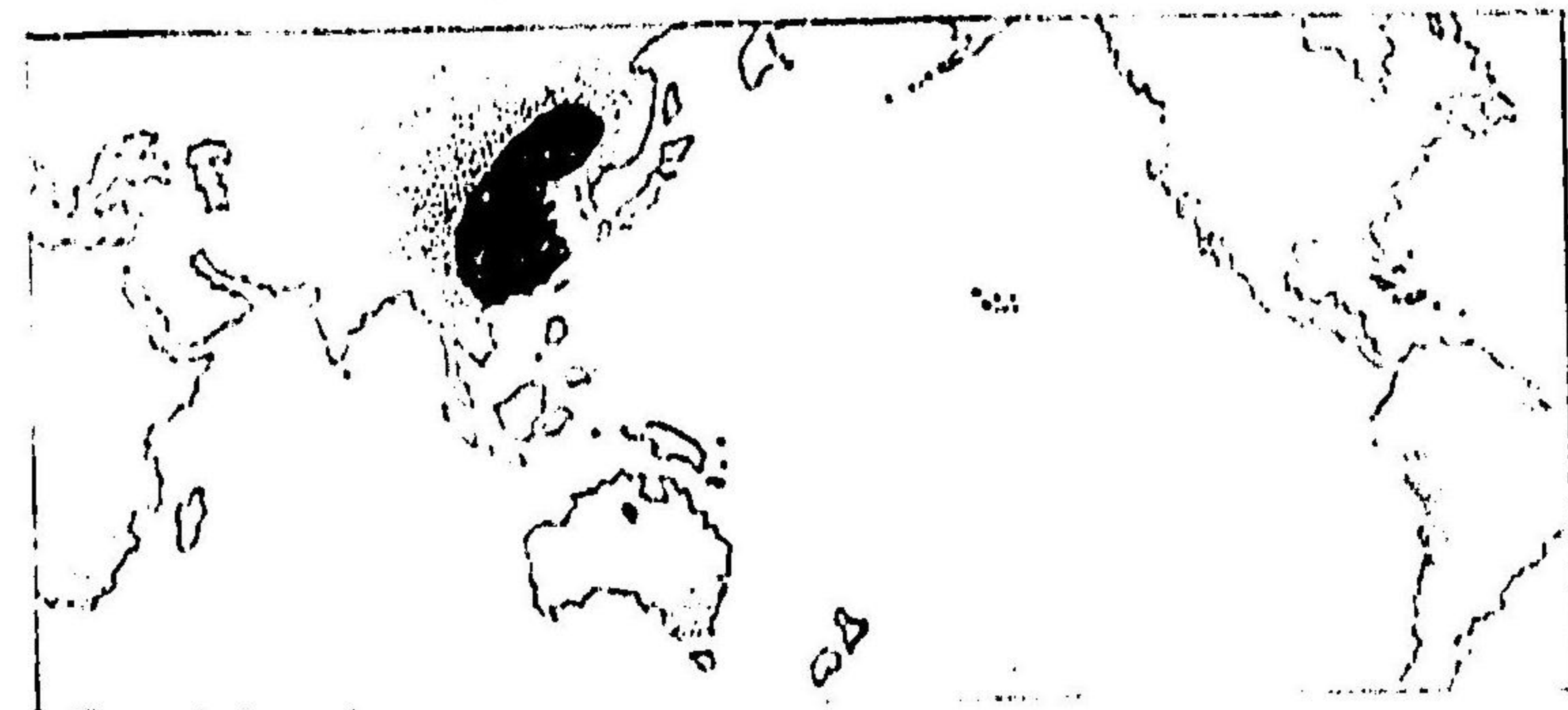
の他南清に閩江あり、北清に白河あり、滿洲の北境に黒龍江あり、松花江及び烏蘇里河は黒龍江の支流なり。

二〇、氣候。

南部の沿岸は溫和なれども、夏季、大風の害あり、北部は大陸性にして、沿岸多くは氷結す、西藏及び蒙古は雨量極めて少く、支那本部の沿岸は季候風の爲めに雨量稍多し。

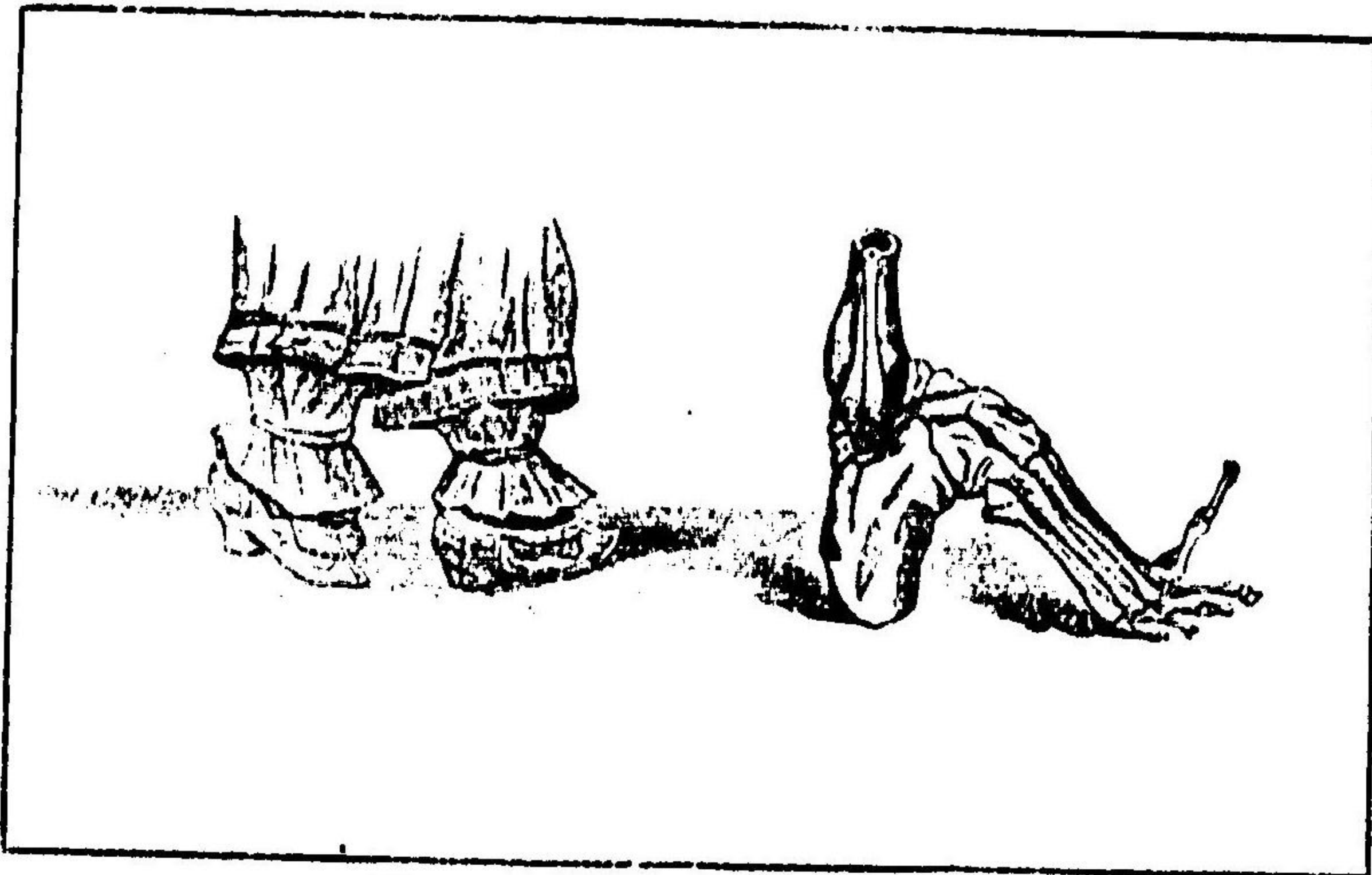
二一、人民。

人口凡そ四億三千萬、世界人口の殆んど四分の一を占む、西部には無人の境あれども、支那本部の一部は人口の密度甚だ大なり、隨て海外移住は甚だ盛んにして、殆んど全世界に亘り、北アメリカ合衆國に於ては、清國人の移住を禁止するに至れり。人種、言語、風習、所により大差あり、其の最も多



布配の人那支

數を占むる漢人及び滿洲人は、儉に非ざれば奢にして、舊慣を脱せず、商機に敏にして、團結強きに係はらず、忠君愛國の志を缺くは、我が國と正に反對なり。食物は脂肪多きを好み、常に豚を用ふ、生水を飲まず、煮ざるものを食せざるは、良習なれども、阿片喫烟と女子纏足とは、其の二大弊なり。髮の制、清朝より始まり、厚葬の風古より存し、又漢人は字を書せる紙を大切に、して、苟くも遺棄することなし。教育は、近時大に改



形時 の 骨 と 足 纏

良進歩の計畫あり、雖も其の功績未だ著しからざるが如し。宗教は一ならず、されども、儒道佛最も行はれ、蒙古及び西藏には喇嘛教専ら行はる。

二二、政治。

此の國の政體は君主專制なれども、大清會典に則りて、政治を行ひ、要路の大官には必ず滿洲人、漢人を併せ用ふ、政治機關は帝室

軍に總理衙門と稱す

部中央部及び地方部の三部より成る。中央部には内閣あれども、實權は辨理軍機所にあり、内閣の次ぎに吏部・禮部・兵部・刑部・工部の六部ありしが、今は別に海部及び外部の二衙門を置く。地方部は二十二省の中、東三省を除き、多くは一省或は二三省に總督を置き、又多くは各省に巡撫を置く。

兵備は陸軍に八旗・綠旗・勇の三種あり、八旗及び綠旗より選拔せる練軍あり、其の一部は新式の訓練を経、新式の兵器を有す、海軍は日清戦役に於て、北洋水師全滅せしが、現今次第に復舊の準備に着手せり。

此の國は舊時より我が國と交通し、本邦條約國中最も密接なる關係を有す、屢外國と事を生じて常に失敗し、特に日清戦役と義和團の内亂とは、國運の進歩に大打撃を與へた

り、而して滿洲は已にロシアの勢力範圍に入り、其の他の沿岸の要地は、他國の占有に歸し、開港場に於ける各國居留地は、事實上清國の治外に立てり、而して義和團の内亂以後、各國は多少の兵を永く北清に駐むるに至れり。

我が國は公使館を北京に、總領事館を上海・天津に、領事館を牛莊・芝罘・重慶・漢口・杭州・廈門・沙市・福州・蘇州に置き、上海總領事館の分館を南京に置く。

二三、産業。

南部は米、北部は麥・大豆を産し、阿片・蠶絲・茶・綿の産も亦た多し。牧畜は盛んにして、騾及び驢は北部に、駱駝・綿羊・山羊は蒙古に、豚は到る所にこれを養ふ。礦物には鐵及び石炭の非常なる量あり、又東洋特有の玉は崑崙山系より出づ。

南京織子
支那織子
南京燒

絹織物及び陶器の製造は南部に盛んなり、食鹽は政府の專賣する所なり、厘金税の制は内國商業上の障害をなす。

外國貿易上全國の中心は上海にして、内地にありては漢口、北清にては天津、南清にては廣東なり。最も重要な輸出品は生絲及び茶にして、最も重要な輸入品は金巾及び阿片なり、即ち生絲を賣りて金巾を買ひ、茶を賣りて阿片を買ふものと云ふべし。我が國との貿易も近來盛大となり、我が國は米、大豆、綿肥料等を此の國より輸入し、綿織絲水産物、銅、マ、チ等を此の國へ輸出す。

輸出入額は凡そ六億五千萬圓にして、開港場は陸路貿易場を合せて左の三十八所なり。

盛京省牛莊。直隸省秦皇島天津。山東省芝罘。江蘇省

Ninchwang

China

上海、吳淞、蘇州、鎮江、江寧。浙江省杭州、寧波、溫州。福建省三

Wusung

都澳、福州、廈門。廣東省汕頭、廣東(廣州)、三水、江門、甘竹、拱北、瓊

Syatan

Lopra

州(海口)、北海。安徽省蕪湖。江西省九江。湖北省漢口、沙市

Pakhoi

Wulu

宜昌。湖南省岳州。四川省重慶。廣西省梧州、南寧、龍州。

Yochau

Wachau

Lingzeian

雲南省思茅、蒙自、猛印。蒙古寶買城。西藏亞東。

Szunao Mengsze

Yatung

二四、交通。

南部には揚子江、珠江の如き大河あり、特に揚子江の下流地方は運河縱横に通じ、水利至大なり、唯有名なる大運河は頗ぶる填塞して、糧米漕運上舊時の觀を持せず。揚子江の水利は至大にして、上海より漢口を経て宜昌に至るまで、大汽船を通じ、我が大阪商船株式會社も亦た此の航路を營業す。近時宜昌より、三峽の嶮を通じて、上流へ汽船の航通を

南船北馬

膠州灣附近の
短距離の
鐵道あり又
漢口より湖
北省の北境
まで竣成せ
り

開くの計畫をなすものあり。沿海諸港の航海も亦た盛んにして、我が日本郵船株式會社は舊時よりこれに従事し、近時大阪商船株式會社も南清航路を開通せり。
清國內地の交通上特に注意すべきは鐵道、近來の發達なりとす、北京より天津を経て山海關に達するものは、延びて南部滿洲鐵道に連絡す、南部滿洲鐵道はシベリヤ鐵道の一
支線にして、奉天府を経て大連灣及び旅順口に達するものなり。而して北京より南西に進み、保定に達せるものは、更らに南方に延び、工事中にして、終には漢口に達すべき豫定なり、又吳淞、上海間に短距離の鐵道あり、以上は殆んど皆外國人の掌中にあり。
内地には手車と稱する、特種の車ありて、運搬の用に供す、

天津には我が
領事館あり

一輪にして往々帆を附するものあり、電信及び郵便は稍發達し、海陸共に内外國へ通信を缺かず。

二五、地方誌。

支那本部 China Proper 直隸省の北京は清國の首府にして、市街は圓

むに堅固なる城壁を以てす、極めて不潔なり、人口は百六十

萬と稱す、我が公使館の設けあり。天津は北京の咽喉、北清

貿易の中心、直隸總督の駐在地にして、白河の岸に位し、交通

便利なり、冬季は河水氷結す、天津より北方に當り開平の炭

坑あり。河南省の河南は古の洛陽、陝西省の西安は古の長

安、甘肅省の蘭州は陝甘總督の駐在地なり。江蘇省の蘇州

は吳の故都にして、南京の通稱ある江寧は兩江總督の駐在

地なり。上海は揚子江Yangtzeに通ずる黃浦江Wangpooの岸にあり、外國貿

易の中心にして、本邦在留人の數甚だ多く、我が總領事館あり、近傍に江南機器局あり。江西省の九江は陶器の産全國に冠たり。浙江省の杭州は絹織物の産最も多く、又海嘯の奇觀あり、寧波は屢我遣唐使の至りし所温州は蜜柑の産地なり。福建省の福州は閩浙總督の駐在地、福建水師の根據地にして、近傍に馬尾船政局あり、廈門は我が臺灣に對して最も主要なる位置を占め、本邦在留人の多きこと上海に次ぐ。廣東省の廣州は通稱廣東の名あり、人口凡そ二百萬、兩廣總督の駐在地にして、南清貿易の中心なり。四川省は北境に蜀の棧道あり、長江に三峽の嶮ありて、自から別天地を成し、面積殆んど我が國の全土に等しく、其の人口は遙かに我が國の總人口より多し、其の成都は四川總督の駐在地な

東三省と稱す

り。雲南省の雲南は雲貴總督の駐在地なり。湖北省の武昌は湖廣總督の駐在地にして、赤壁は此の近傍にあり、漢口は漢江長江の合流點に位し、人口は凡そ八十萬、内地商業の中心にして、特に茶の取引盛んなり、對岸に有名なる製鐵所あり。

滿洲。清朝開基の地にして、今三省に分る、氣候は大陸性

Manchuria

にして、寒暑共に甚し、奉天(盛京省の奉天)盛京は滿洲の中心

Mukden

なり、ロシアの經營に係る東清鐵道はシベリア鐵道より分岐し、滿洲を過ぎてウラジナストクに達し、又南部滿洲鐵道は其の一支線にして、旅順口及び大連灣に達す、滿洲の現状はロシアの勢力範圍たるを免れず、遼東半島は日清戰役の遺跡多く、其の沖なる海洋島は黃海の戰役に名高し。

蒙古。ゴビ砂漠によりて内外の二部に分つ。庫倫(一名ウ
 Mongolia
 ルガ)は外蒙古の中心なり、牧畜甚だ盛んにして喇嘛教専ら
 D'era
 行はる。國境の賣買城はシベリアのキヤクタと相連り、其の間
 Kialita
 一木柵を隔つるのみ。

新疆省。此の地は古の西域にして、又伊犁と稱す、天山に
 Sinkiang
 よりて二部に分たれ、天山南路は東トルキスタンにして、タ
 East Turkestan
 リム河の灌域に屬し、羅布湖其の中にある、大部は砂漠なり、

天山北路はジンガリアにして、伊犁河の灌域に屬し、地味肥
 Jungaria
 沃、迪化は其重もなる都府なり、又伊犁府は國境に近く、北京
 を距ること一千四百里の所に位す。

青海。清國の中央を占め、人口極めて疎なり、黄河、揚子江
 Kokonor
 の分水界を成し、又同名の湖あり。

西藏。其の地勢は世界第一の高原なること前に出づ、喇
 Tibet
 嘛教の教主は首府拉薩に住し、兼ねて政治を主宰す、北京を
 距ること千八百里、北京政府の指揮を受くれども、鎖國して
 外國人を入れず、現今にありては地球上地理最も不明なる
 部分なり。

清國二十二省の名及び首府左の如し。

直隸 Chili	山東 Shantung	山西 Shansi	河南 Honan	天津	濟南	太原	開封
湖南 Hunan	江蘇 Kiangsu	廣東 Kwangtung	廣西 Kwangsi	長沙	蘇州	廣州	桂林
四川 Szechuen	江西 Kiangsi	浙江 Chekiang	福建 Fukien	成都	南昌	杭州	福州
盛京 Singking	吉林 Kirin	黑龍江 Amur	新疆 Sinkiang	奉天	吉林	齊々哈爾 Tschihar	迪化

湖北 Hupoh	安徽 Anwei	安慶 Anking	陝西 Shensi	西安 Si-an	雲南 Yunnan	雲南
武昌	甘肅 Kansu	蘭州	貴州 Kweichow	貴陽		

第五節 アジア洲中

の附屬國

二六總説。

アジア洲中には東部アジアを除き、他に著しき獨立國殆んどこれなきこと、第二節に述べしが如し。東部アジアに於ても、清國の要地は諸國の占有す



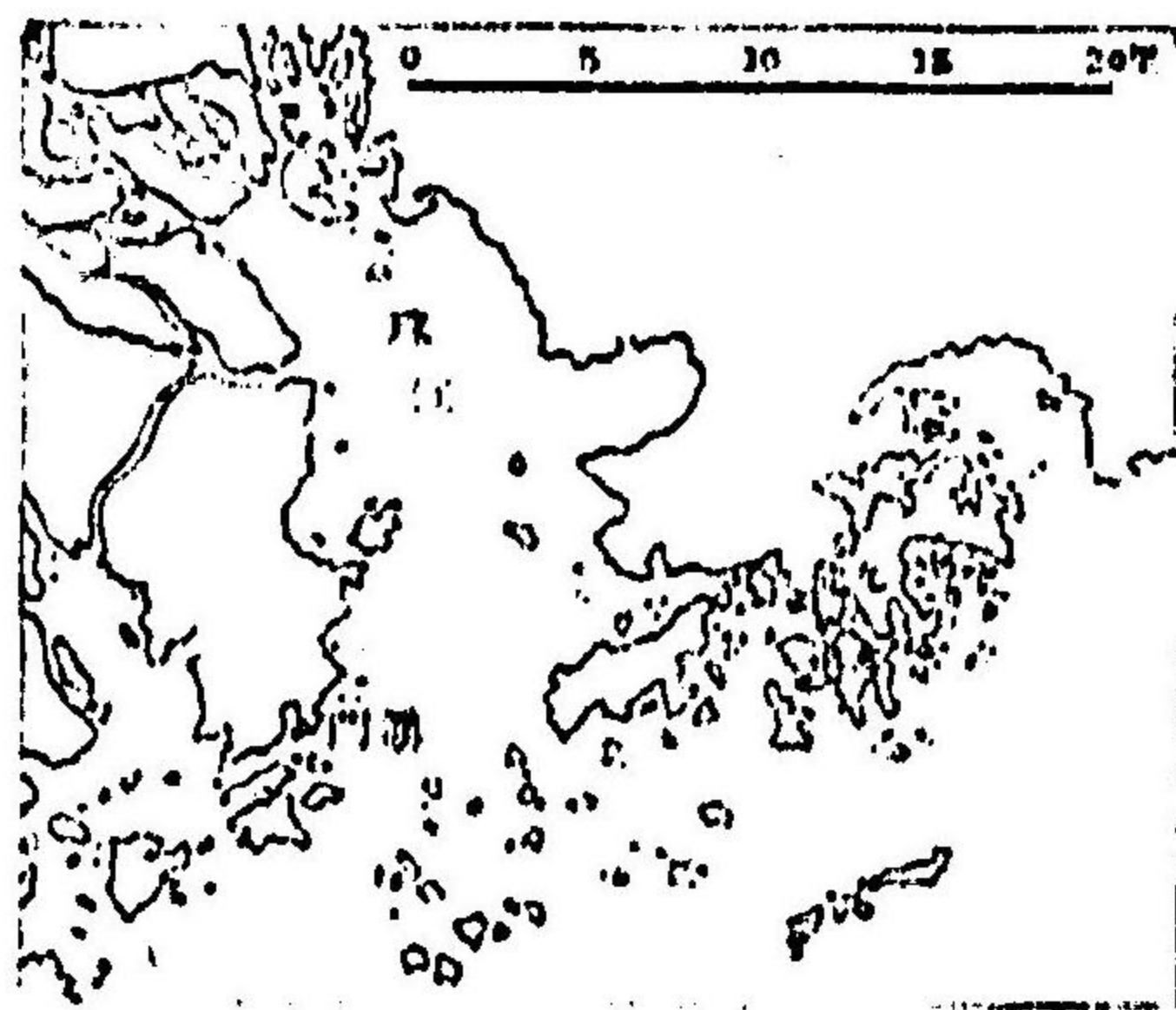
香港附近の讓與地方

る所となれり、今左に順を追ひてこれを記さん。

二七、支那に於ける占領地。

地理上支那の一部にして、名實共に清國の有に非ざるものは、香港及び澳門なり。

●香港は珠江の河口に近き一小島にして、對岸の九龍と相
Hong-kong Kanlung



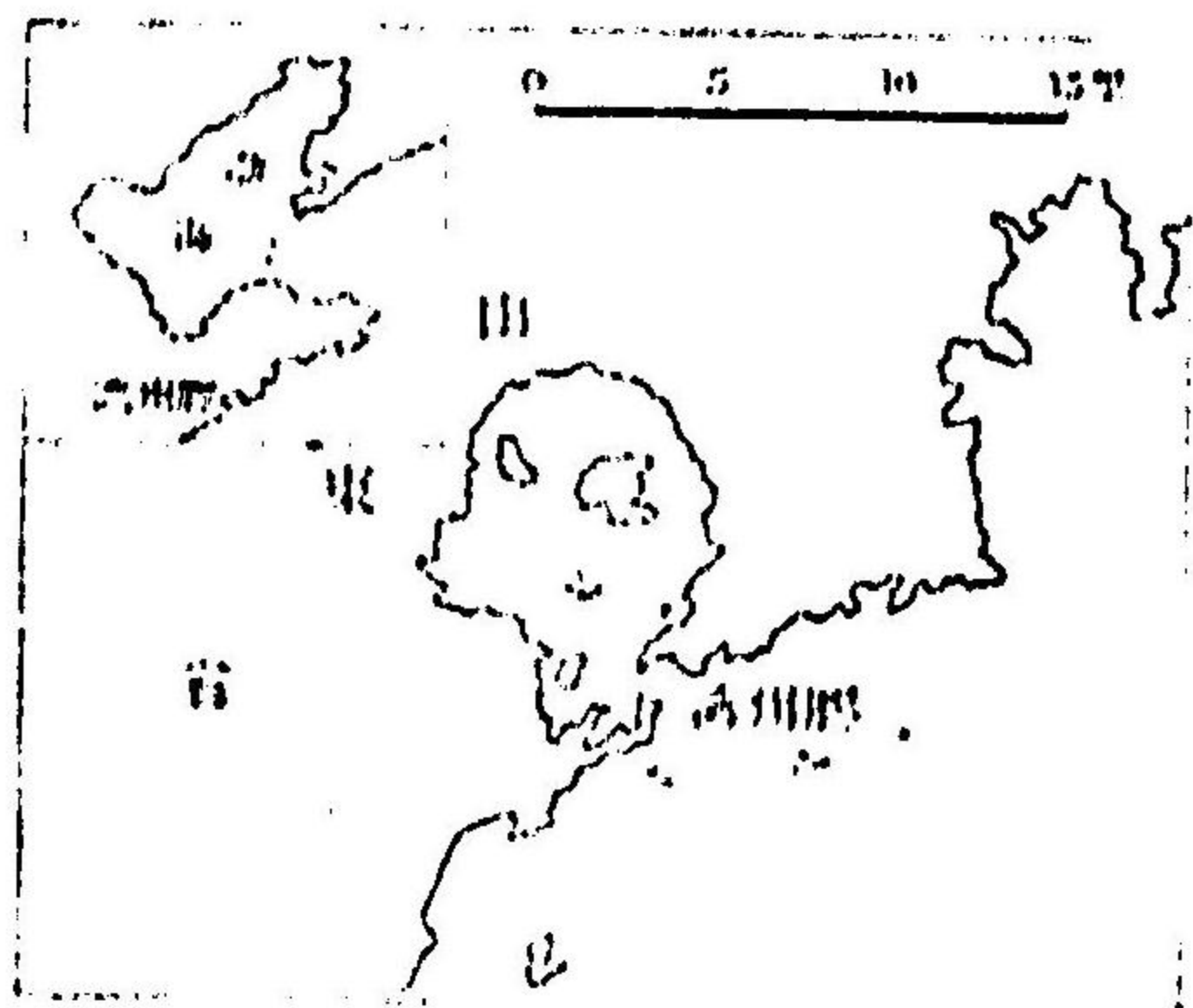
香港及び澳門

香港商業の樞紐は清國人のこれを握る

對して良港を成す、其の都邑をツクトリアと云ふ、阿片戦争の結果として、清國よりイギリスに割讓せしものにして、今はイギリスの支那艦隊根據地なり。此の地は東洋貿易の中心にして、物貨は先づ此の地に集りて、後四方に散ず、

び大連灣を占有すると同期間これを占有するの承認を清國より得たり。

膠州灣は山東半島の南岸にある良港にして北清に對し重要な位置を占む、ドイツの宣教師殺害の結果清國は遂にドイツの爲めに灣及び其の四近を占領せらるゝに至れり。



膠州灣

廣州灣は雷州半島の東側にあり、灣の四近はフランスの占領する所なり、此の地はトンキン灣の防禦、フランス領印度支那の保安上、至要なる位置にあり。

二八、北部アジア。

北氷洋は大
西洋の一支
として見る
べし

北部アジアはロシア領なるシベリアにして、面積甚だ廣く、凡そ我が國の三十倍あり、南境の山脈は溫暖なる南風を遮ぎり、北は一面打ち開けて北氷洋よりの寒風に吹き暴さらるゝが故に、氣候概ね寒冷なり。其の區域三部に分る、北緯六十五度以北は凍土帯と稱し、地下深く凍結す、これより以南五十五度までは森林帯と稱し、森林多し、其の以南は曠野帯と稱し、農産に富む。オブ・エニセイ・レナ・黒龍江の四大河と、バイカル湖とは汽船を通じ、水利至て大なれども、冬季氷結するの不利あり。レナ河口は世界最寒地の一にして、河口の附近に往古の巨象の遺骸多し。屬島の有名なるものは樺太にして、我が千島と交換せしものなり。

ロシアの行政上シベリアの西部は内務省の直轄とし、其



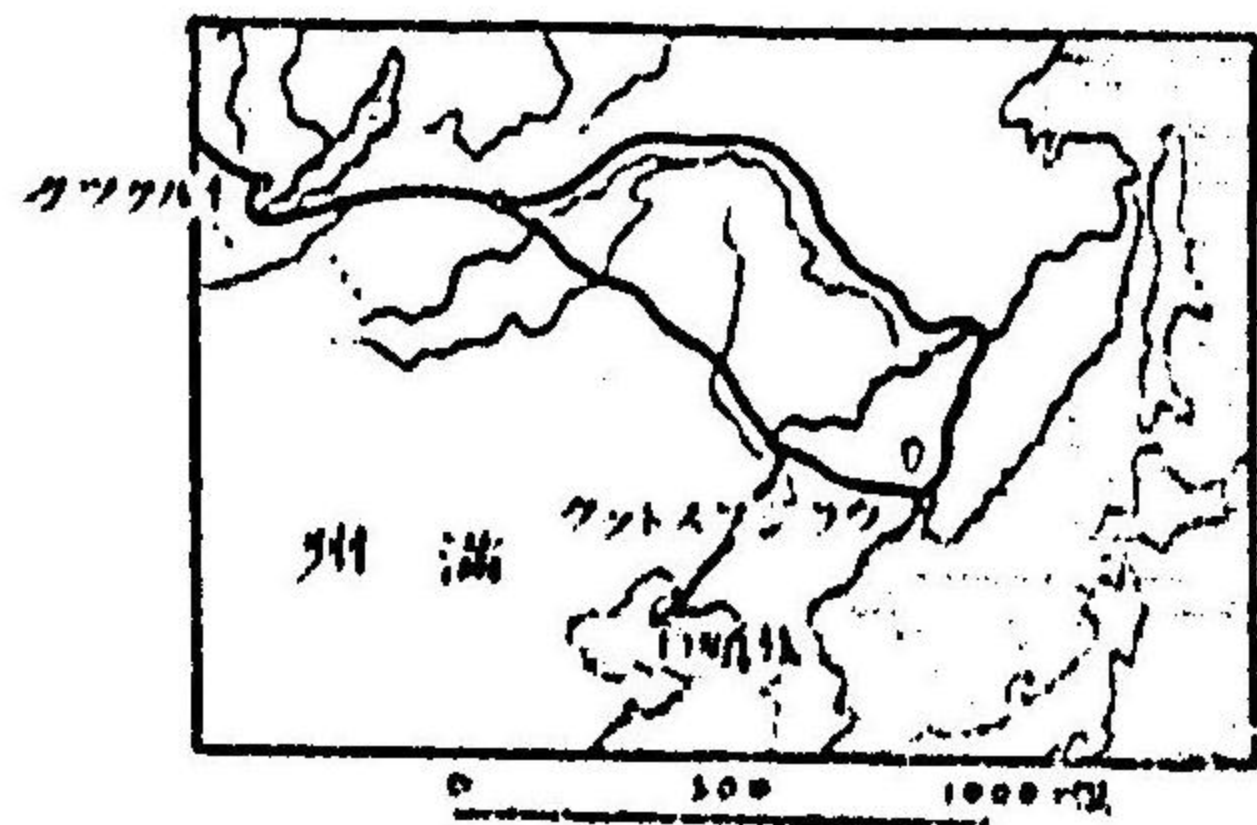
シベリアの犬挽

の他は二つの總督管區に分つ、シベリアの兵備は近時著しく増大せられたり、其のユサク兵は屯田の制にして、驍勇の聞えあり、又ウラジチヤストク軍港の防備は極めて堅固にして、冬季も碎氷船によりて、出入自在なり。

農産・畜産及び鑛産に富み、特に金の産出近來次第に増加し、又カムチヤカ半

Kamchatka

島四近の海上は、水産極めて豊富にして、世界三大漁場の中に數へらる。交通も郵便電信の便あり、又犬橋ありて、運搬を助く、而してシベリアの交通上特に記すべきは、有名なるシベリア大鐵道なり。



シベリア大鐵道の東部

シベリア大鐵道は、西はロシアのチリヤピンスクより起り、中アジアのオムスクを經、オフ河を越え、トムスクの南方を過ぎ、シベリア中部の都なるイルクツクに至り、バイカル湖の岸に達し、進んで黒龍江水運の中心たるブラゴウエスチンスクを過ぎ、カバロフスクを經、ウラジチヤストクに達すべき計畫にして、全長殆んど

Nikolaiorok

Blagoveshchensk

Irkutsk

Tomsk

Omisk

Chelyabinsk

一月餘にし
て世界を一
周すること
を得

五千哩あり、此の中バイカル湖以西は既に開通し、湖上は汽船にて連絡し、カバロプスクよりウラジナストクまでも亦た落成せり。カバロプスクとバイカル湖との間は、工事困難なるにより、別にシベリア鐵道の幹線より分岐し、滿洲を経て、ウラジナストクに達すべき東清鐵道を經營し、これより又支線を出し、盛京を経て旅順口及び大連灣に達す、これを南部滿洲鐵道と稱す。東清鐵道は其の本支線を通じて全長凡そ一千九百哩、今や殆んど全く開通せり。シベリア鐵道線路全部完成の日には、世界の交通、商業、軍事、外交上極めて重要な關係を有すべし。

コーカサス及び中アジア。此の二地はシベリアと共に、ロシア領アジアの全部を成すを以て、左に附記すべし。中

アジアは西に裏海、中にアラル海、東にバルカシ湖を控へ、シルダリア、アムダリア、伊犁等の大陸河これに入る、これ等の鹹湖は往古内海の遺跡なり、裏海鐵道は裏海の東より起り、清國の西境に達す、オムスク及びタシケントは重なる都會にして、又ツマルカンドは帖木兒の舊都なり。コーカサスは黒海及び裏海の中間に位し、人民は容貌の異なるを以て名高し、バークーは有名なる石油産地にして、此の石油は我が國にも輸入す。

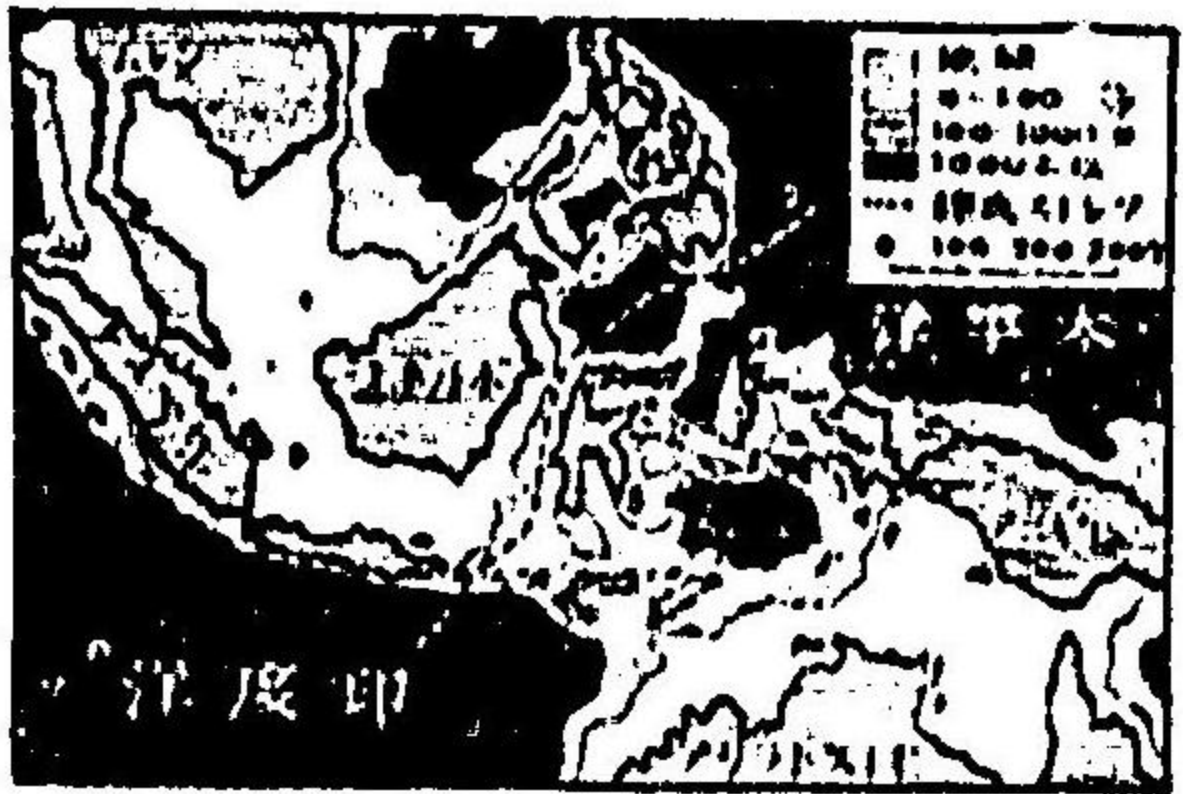
二九、南部アジア。

南部アジアはシム王国及びヒマラヤ山系の二小國第二節に出づを除くの外、他は皆西洋諸國の屬地なり。今左に順を追ひてこれを述ぶべし、南部アジアは地理上マライ諸

島・印度支那及び印度の三部に分る。

甲、マライ諸島、^{Malay} アジヤ及びオーストラリア兩大陸の間に横はる諸島を東印度群島と云ふ、此の中精密に論ずれば、一部はアジヤに屬し、一部はオーストラリアに屬すべきものなり、而してバリ・ロンボク兩島間の海峡は、水著しく深く、且つ生物分布の境界線を成すが故に、これを以て兩大陸の境界とし、此線をワレリス氏線と云ふ、爰にマライ諸島と云ふは、即ち東印度群島の一部にして、ワレリス氏線によりて、アジヤに屬すべきものを總稱し、今はオランダ・イギリス・北アメリカ合衆國これを分ち領す、オランダ領は面積最も大にして、ジャヴァスマトラ全部、ボルネオの大部を含み、ジャヴァ島のバタヴィアに總督府を置きてこれを治む。 ^{Batavia} ジャヴァ及びス

ジャヴァの甘蔗糖産の甘は世界の四分の一に當る



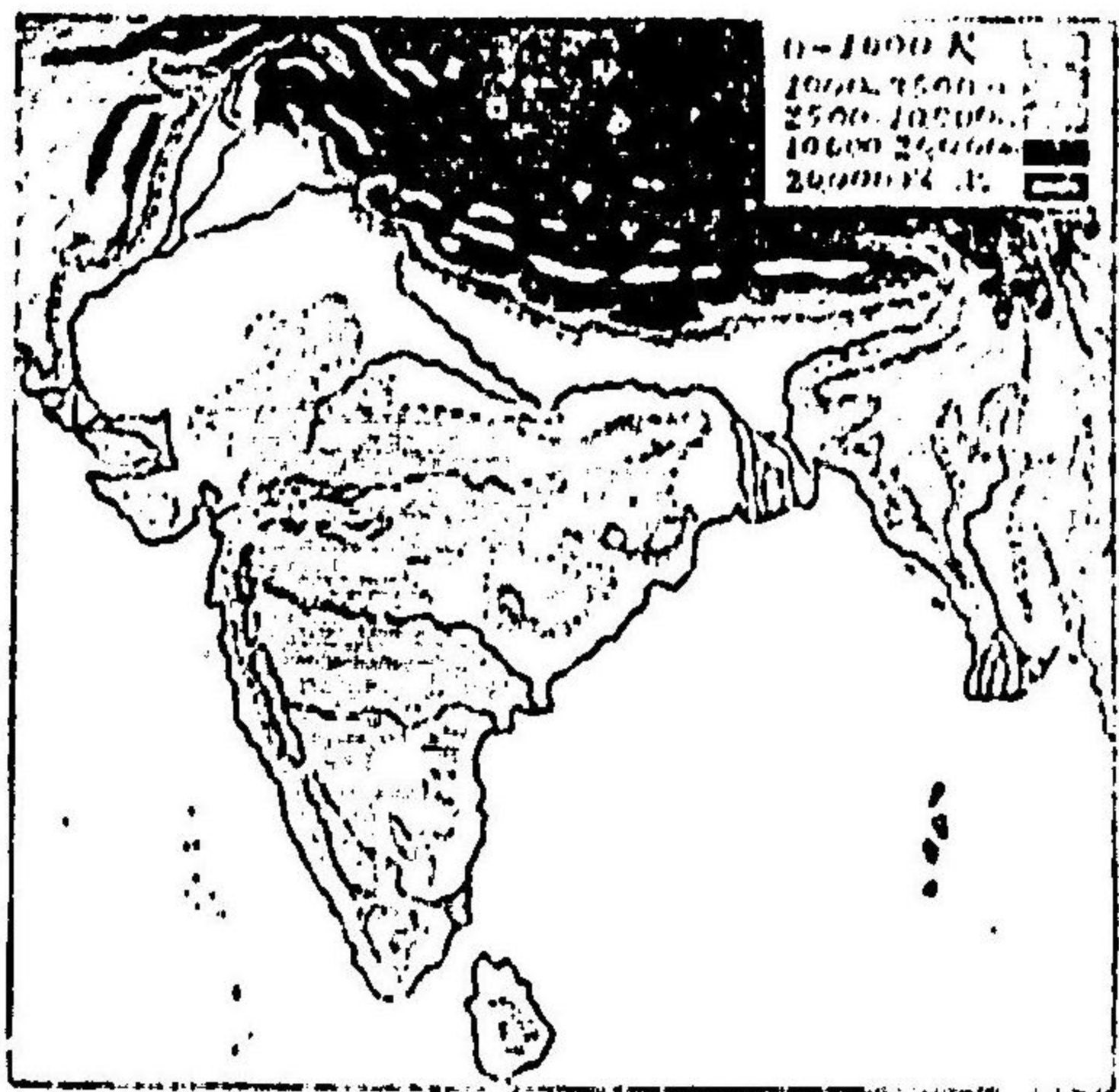
スーレフ線の圖

マトラは石、油、砂糖、咖啡の産多く、^{Borneo} ボルネオは金、金剛石、^{Bangka} バンカは錫に富む。イギリス領はボルネオの北部のみに過ぎず、北アメリカ合衆國領は、^{Philippine} フィリピン諸島にして、此の中最大なる^{Luzon} ルソン島は、^{Pashee} パシー海峡を隔て、我が臺灣の

南に對す、烟草及び砂糖の産多く、我が國に輸入する額も少からず、首府をマニラと云ふ、本邦在留人も少からず、我が領事館あり、もとスペインの領地なりしが、合衆國領に歸せし後も、土人未だ全く服従せず。

乙、印度支那。フランス領、^{Indo-China} シム王国、イギリス領の三部に分れ、^{Tonking} シムは獨立國なり。フランス領印度支那はトンキン。

安南・交趾支那・カンボディアの四部に分れ、トンキン・メコンの
 Annam Cochinchina Cambodia Mekong
 二河これを貫流し、南京米の産出甚だ多く、盛んに本邦に輸
 出す、交趾支那のサイゴンに總督の駐在地にして、フランス
 國郵便船こゝに寄港す。イギリス領は海峽殖民地とビル
 マとに分れ、海峽殖民地はマライ半島の南部を占め、其のシ
 ンガポールは南端の小島にあり、交通の要點に位し、日本郵
 船株式會社の汽船こゝに寄港す、これより北西にヒナン
 あり、亦た其の航路に當る、シンガポールには清國人最も多數
 を占め、本邦人も少からずして、我が領事館の設けあり。ピ
 ルマは行政上イギリス領印度の一部を成し、サルワン・イラ
 Burma Salween Ila
 ワデーの二河これを貫流し、南京米の産出に富む。
 Waddi
 丙、印度。地勢上ヒマラヤ山系、印度大平原、デカン高原の



印度の地勢

三部より成る、ヒマラヤ山系は非常なる高度を有し、ゴ
 リサンカー(一名エヴレスト Gaurisankar Everest
 峰)は其の高さ凡そ二萬九千尺にして、世界第一の高峰たり。印度大平原はインダス
 Indus 及びガンデス二大河の貫流する所にして、ガンデス河は
 Ganges Brahmaputra
 婆羅門教徒の最も神聖として、視る所なり、ブラマプトラ河を合して、河口に大三角洲を成す、其の面積世界第一にして、又其の四近は地球上最多の雨量を有す。氣候は概して乾熱・濕熱・冷涼の三季節に分る。

人口凡そ三億、ヒンヅ一種最多數を占め、婆羅門教最も行はる階級の制嚴にして、僧族第一位を占め、階級異なるものは互に交通せず、人種及び言語の數甚だ多く、國の統一得て望むべからず。此の國は佛教起源の地にして、其の建國極めて古く、アジア文明の母とも稱すべきものにして、我が國上古の發達は此の國文化の輸入大に與て力あり、然るに今は全くイギリスの掌中に歸し、行政上イギリス領印度の殆んど全部に當る、これを大別して直轄部及び藩部とし、直轄部には總督知事等を置き、藩部は土人の王の自治に任じ、全土を總轄する爲め印度大總督を置く。

天産には甚だ豊かにして、農産には綿米・阿片・茶・藍あり、林産も亦た頗ぶる多く、榕樹の巨大なるものは、一樹にして大

我が國の原料は織
糸の原此の國
重にも此の國
國より來るの

森林を成すに至る、虎・獅子及び毒蛇の害は年々少からず、印度支那に於けるが如く、象は家畜として用ひらる。

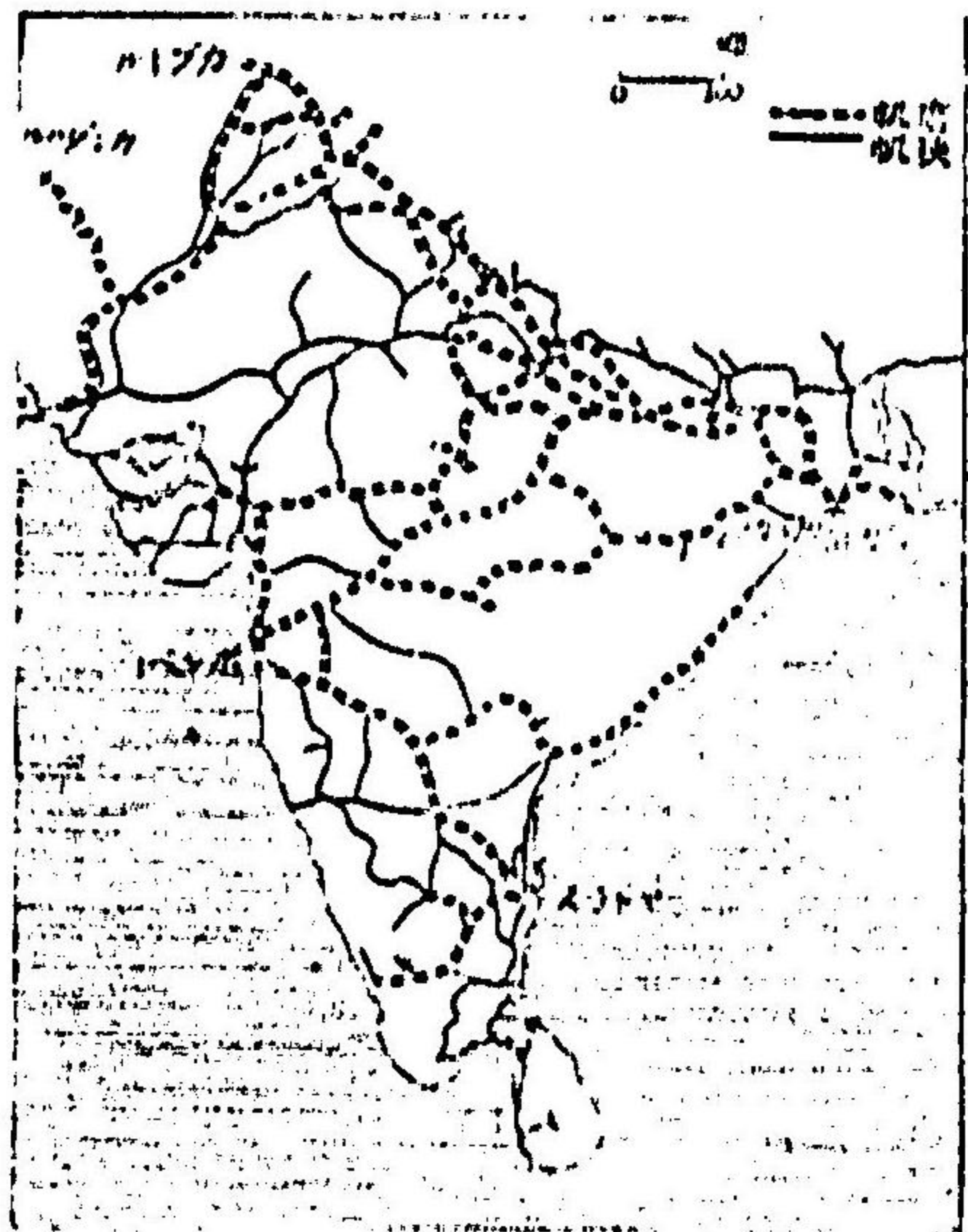
貿易は甚だ盛んにして、輸出入額十四億圓を超え、主要輸出品は綿米・黃麻・茶・阿片等にして、主要輸入品は綿布・金屬類・機械・砂糖等なり。其の輸出入國は重もにイギリス本國なれども、其の次ぎは清國にして、阿片の輸出甚だ多し、又我が國は此の國より盛んに綿及び藍を輸入す。

ガンデス・プラマプトライingas 諸河の水利と、全長二萬四千哩の鐵道とによりて交通至便なり。

大都會の數甚だ多く、就中カルカッタ・ボンベイ・マドラス・ハイダラバドの四府最も名あり、カルカッタは印度大總督の駐在地に於て、ガンデス河の三角洲に位し、印度第一の都會に

Hyderabad

Calcutta



印度の鐵道

は東岸にあり、ボンペーに次ぎ、有名なる都會なり。

印度半島の南東にあるセイロン島は、面積我が九州より少しく小、其のコロンボは世界交通の衝に位し、日本郵船株式會社汽船の航路に當る。セイロンはイギリスの行政上一の直轄殖民地を成す。

して、貿易も亦た盛んなり。ボンペーは西岸にあり、人口及び貿易共に、カルカッタを凌ぐの勢あり、日本郵船株式會社の航路に當り、我が領事館の設けあり。マドラス

印度半島の中にポルチガル及びフランス領あれども、其の面積は至て小なり。

三〇、西部アジア

西部アジアも亦たアフガニスタン・ペルシア及びオスマンを除くの外、皆西洋諸國の領地なり、(第二節を見よ)地理上イラン諸邦、アラビア及びアジアトルコの三部に分る。

甲、イラン諸邦。アフガニスタン・ペルチスタン及びペルシアより成る、ペルチスタンはイギリスの保護國にして、ケラットの酋長これを總轄す。

乙、アラビア。地勢高原にして、大抵砂漠なり、護謨及び馬を産す、粟は人民の常食なり。回教の起源地にして、マホメットの生地たるメッカ、其の死地たるメデナ皆こゝにあり、全半

世界第一の半島なり
メッカ、メデナはトルコ領なり

紅海は世界
中最暖の水
を有す

島は殆んどエジプト及びトルコの支配に屬し、又獨立の酋長あれども、實際上イギリスの勢力が少からずして、紅海口に近きアデンは其の領地なり。

Aden

丙、アジアトルコ。地勢は一ならず、チギリス及びユーフ

Turkey in Asia

Hgens

レナス二河の灌域は平地廣大なり、又死海の沿岸は世界第

Dead Sea

一の窪地にして、其の海面は地中海の面より低きこと凡そ一千三百尺、其の水非常に鹹く、人體沈むことなし、近傍は基督教の起源地にして、基督の墳墓はパレスタインのジルサレムにあり。

第三章

オセアニア

Oceania

第一節

オーストラリア

Australia

三一 總説。

オーストラリアはアジアの南東に位する大陸にして、其の面積ヨーロッパの五分の四に當り、世界最小の大陸にして、或はこれを島と見ることあり。其の位置全く南緯にあることは、他の大陸と異なる所にして、南アメリカ及びアフリカに於ては赤道其の中を貫き、北アメリカ及びヨーロッパは全く北緯にあり。オーストラリアの發見は、十七世紀の始めにあり、十九世紀の半頃、金山の發見ありしより、本土への

移住大に盛況を來たせしも、内地は尙ほ地理不明の所多く、特に其の西部を以て最も甚だしとす。

三二、地文地理。

オーストラリアの内地は少しく低くして、四周は稍高し、就中南東部には稍著しき山脈あれども、他大陸に於ける如き巨大なるものに非ず。其の南部にオーストラリアアルプスの名ありて、最高點^{Kosciuszko} ヌシースコ峯は七千尺以上に達すれども、未だ雪線に達すること能はず。内地の西部は多く砂漠にして、所々に小山脈及び鹹湖あり。

沿岸。此の大陸の輪廓は單簡なる一大團塊にして、海岸線の大屈曲に乏しけれども、南東部には小なる出入多し。

又北東部には珊瑚礁あり、大礮礁と云ふ、長さ凡そ五百里、所

Great Barrier Reef

々に切れ目ありて、外洋と内海とを通ず。オーストラリアの地勢は内部に向ては傾斜緩かなれども、海岸は絶壁を成せる所多し。

水誌。オーストラリアの河は他大陸の同長の河に比して水量甚だ少し。又季節と共に水量に大變化ありて、洪水の憂あれども、これと共に河岸に沿ひ沃土を堆積するの利あり。オーストラリアには著しき大陸河なけれども、其の内地灌域は頗ぶる廣大なり。著しき大陸河を缺けるは、内地に雨量の少きと、蒸發の盛んになると、砂地に滲透するに由る。

オーストラリアの河にて、海に注ぐもの、中最も大なるは、^{Murray} ムルレー河にして、長さ五百里に餘り、雨季には水利至大

なり、唯河口の淺きは缺點なり。内地には鹹湖の大なるもの多く、アイヤ湖最も名あり。

氣候。面積廣大なるを以て、オーストラリアの氣候は所により大差あり。北部の沿岸は熱帶性の氣候、南部の沿岸は溫帶性の氣候を有し、其の高地には冬季積雪少からず。洪水旱魃共に甚だしく、牧畜上の損害少からず。

オーストラリア内地は雨量極めて少く、寒暑の差甚だし。熱風起るときは、樹蔭に於ても五十三度に達することあり。斯くオーストラリア内地は雨量少く、著しき河なけれども、中央部は低窪にして、流水地下に滲透せるを以て、鑽井を穿つときは、砂漠を變じて沃地に變じ得べしと云ふ。

三三、人文地理。

南緯に位するが故に我が國とは季節反對なり

所によりては一人に付き千圓を課す

人民。オーストラリアは人口凡そ三百七十萬、年々著しく増加す、概ねイギリス人にして、主人の數は甚だ少く、且つ次第に絶滅す。これ等の主人は野蠻にして、定住せず、蛇蛙を食ひ、食人の陋習を存す。

オーストラリアに移住する支那人の數は次第に多きを加へしを以て、遂に法律を以て其の移住を制限し、禁止的人頭税を課するに至れり。

オーストラリアに在留する我が國人の數は、近來次第に多きを加へ、各州は其の移住に制限を加へんとする傾向あるは、大に注意すべきことなり。

政治。オーストラリア全土はイギリスの領地にして、もと五箇の殖民地に分れしが、近時各殖民地の勢力大に發達

せしにより、改めてこれを州とし、合してオーストラリア聯邦と稱し、大總督を置き、以て政治上の統一を計れり。オーストラリア聯邦は六州より成る、ヴィクトリア、ニューサウスウールズ、クィーンズランド、南オーストラリア、西オーストラリア及びタスマニアこれなり。各州には總督を置き、内政は自治なり。

産業。オーストラリアの天産植物は珍奇なる種類に富み、ユーカリ樹の如きは高さ五百尺に達するものあり。然れども今日オーストラリアに多量の農産あるは、其の種子元來悉くヨーロッパより移植せしものなり。

オーストラリアは動物も亦た奇異なる種類を存し、カンガルー及び鴨嘴の如き奇獸あり、今日オーストラリアに蕃



鴨嘴及カビカガ

殖せる家畜は昔元來ヨーロッパより輸入せしものにして、羊の頭数は全世界第一に位し、羊肉及び羊毛の輸出頗ぶる盛んなり、又沿岸には眞珠貝の産少からず。

礦物。オーストラリアは鑛産に富裕にして、合衆國及び南部アフリカと共に世界の重なる産金地なり。又良好なる炭田ありて、其の石炭は東洋の市場に於て、本邦

石炭と競争するの位置に立てり。

貿易。オーストラリアの外國貿易は、其の産業の進歩と共に次第に發達し、其の輸出品の主要なるものは金及び羊毛にして、重もに本國及びイギリス領諸殖民地と貿易を行ふ。我が國との貿易も次第に盛んにして、我が國より米及び魚油を此の國へ輸出す。

交通。オーストラリアの交通は次第に進歩し、特に南東部に於ては、鐵道の發達最も著し。オーストラリアの交通上特筆すべきは、大陸横斷電線にして、南岸アデレードより北岸のバルメルストンに至るまで、其の長さ殆んど二千哩に達し、非常なる困難を排して架設せしものなり。海底電線はバルメルストンよりシンガポールに達し、以て世界各

近時南部アフリカと海峽を通過せり

國に通ず。

オーストラリアの沿岸諸港及び他大陸間の交通も盛大にして、我が日本郵船株式會社も亦た航路を開き、其の汽船は横濱より香港を経て、オーストラリアの沿岸諸港に至る。

三四各州誌

(イ) ニーサウスウールズ州。
New South Wales

ニーサウスウールズはオーストラリア全土の南東部を占め、首府をシドニーと云ふ。シドニーはオーストラリア最古の都府にして、炭田の中心を占め、其の港は安全なる良錨地にして、オーストラリア艦隊は此の地を根據地とし、要塞の設け甚だ堅固なり。本港は又日本郵船株式會社の航路に當り、我が總領事館の設けあり。

メルボルン
はイギリス
人上陸の際
一枚の布を
一枚の酒を
どを以て土
とを以て土
人より買ひ
取りしもの
なりと云ふ

(ロ) ヴィクトリア州
Victoria

ヴィクトリアはニューサウスウールズの南に位し、オーストラリア全土の南東隅を占め、首府をメルボルンと云ふ。
Melbourne
メルボルンは人口に於ては、オーストラリア第一の大都會にして、日本郵船株式會社の航路に當り、其の港は頗る良好なり。本州はニューサウスウールズ州と共に、金の産出を以て名高し。

(ハ) クィーンズランド州
Queensland

クィーンズランドはオーストラリアの北東部を占め、首府をブリスベーンと云ふ。これより北西にタウンズヴィルあり、我が領事館の設けあり、此の附近には我が國人の在留するもの甚だ多し。
Brisbane
Townsville

本州の北方はヨーク半島突出し、トルレス海峡を隔て、

ニューギニアに對す。此の海峡中に木曜島あり、眞珠貝の産

Murky Island

出莫大にして、我が國人の在留するもの甚だ多く、ブリスベーン及びタウンズヴィルと共に、日本郵船株式會社の航路に當れり。

(ニ) 南オーストラリア州
S. Australia

南オーストラリアはオーストラリア全土の中部を占め、首府をアデレードと云ふ、州の南部は農産及び鑛産に富む

Adelaide

(ホ) 西オーストラリア州
W. Australia

西オーストラリアはオーストラリア全土の西部を占め、首府をパースと云ふ、

Perth

(ヘ) タスマニア州
Tasmania

寒暑氣温の
差非常に少
く且つ空氣
は多量の
「オゾン」
を含む

タスマニアはオーストラリアの南方に位する一大島にして、^{Bass}パース海峡を隔て、これに對す。其の輪廓は心臟形を成し、地勢山多きも、沿岸屈曲多く、良港少からず。氣候の良好なること世界第一と稱せられ、オーストラリア住民の避暑地たり。

住民は殆んどイギリス人にして、此の外多少の支那人あり、土人は近時全く絶滅するに至れり。此の地は造船用の木材に富み、鑛産、農産及び牧畜甚だ盛んなり。唯、狼の一種ありて、羊に危害を加ふるは惜しむべし。此の地の首府をホバートと云ひ、其の港は良好なり。本島はもと殖民地の ^{Holland} 制を布きしが、今は州と改稱し、オーストラリア聯邦の一部を成す。

第二節 マライシア
Malaysia

三五、總説。

マライシアは東印度群島の一部にして、オーストラリアに屬すべきものを總稱す。東印度群島はワレーヌ線によりて、二部に分ち得べく、其の一部はマライ群島と云ひ、アジアに屬すべきものにして、已に第二章第五節に於て述べし所なり。

マライシアに含まれたる島嶼の中、主要なるものは、セレベス・モルッカ及びスンダ諸島の一部にして、多くはオランダの領地なり。

オランダ領
東印度總督
の支配に屬す

三六、各島誌。

セレベス島 *Celebes* セレベス島はボルネオの東にあり、其の輪廓奇にして、*Y*字の如く、又海燕の如し。火山多く、地震も少からず。

モルカ諸島 *Molucca* モルカ諸島はセレベス島の東にありて、香料の産に富む、有名なるマジラン氏世界週航の目的も亦た此の地に達するにありき。本島は數多の島嶼より成り、其中ジロロ島は形奇にして、セレベス島に類似し、又バンダ島には丁香の産多し。

第三節

ポリネシア *Polynesia*

珊瑚礁は海中に海水の湖を作る

三七、總説。

ポリネシアは太平洋中に於ける大小無數の島嶼を總稱し、二三の大島を除くの外、珊瑚島に非ざれば火山島なり。珊瑚島の高さ及び面積は共に大ならざるを特性とす。

海風常に吹くを以て、小島に於ては熱帯の苦熱を感ぜず。又麵包樹の如き特有植物を産し、土人はこれを常食とす。ポリネシアを分て三部とす、メラネシア・ミクロネシア及びポリネシア本部これなり。メラネシアはニューギニアよりフィジー諸島に至るまでを含み、ミクロネシアはメラネシアの北方に連れる諸島にして、大部は赤道の北に位し、ポリネシア本部は太平洋東部の諸島を含む。ポリネシアはオセアニアの他の部分と同じく、すべてヨ

イロバ諸強國の領地となれり。フランスはポリネシアの東部及びニールカレドニア、ドイツはメラネシアの北部及びミクロネシアの大部、オランダはニューギニアの西部を領し、其の他はすべてイギリスの領地なり。

ポリネシアの土人は次第に減少し、其の絶滅の日は遠からざるが如し。人種は一ならず、食人の陋習を存するものあれども、性質大抵溫和なり。

三八、メラネシア。

Melanesia

(イ) ニューギニア。ニューギニアはオーストラリアの北方に位し、面積殆んど我が國の全土に二倍し、世界第二の大島なり。其の輪廓恰も龜の如く、大山脈は中央を貫ぬき、二萬尺内外の高峯少からず。本島は氣候風の影響を受けて雨量

多く、河流に富み、水利少からざれども、屢洪水の憂あり。氣候濕熱なるを以て、熱病多く、低地には土人すら住居に堪へず。且つ森林鬱蒼として、土人強暴なるを以て、内地の地理は尙ほ明かならず。人種はバブア種にして、毛髮羊毛の如く卷縮し、フリッピン諸島に於ける如く、水上生活を爲すもの少からず。ドイツ・オランダ・イギリスの三國これを分ち領す。本島は木材及び果實に富めども、天産は未だ開發せられず。

(ロ) ビスマルク諸島。ビスマルク諸島はニューギニアの北

東にあり、諸島相連りて、破れたる楕圓形の輪を成す、ドイツの領地なり。

(ハ) ソロモン諸島。ソロモン諸島はニューギニアの東方に

Solomon

ありて、イギリス及びドイツの二國これを分ち領す。

(ニ) ニーヘブリーツ *New Hebrides* ニーヘブリーツはソロモン諸島の

南東にありて、イギリス及びフランス兩國の保護地なり。北部の人民は野蠻にして、食人の陋習あり。

(ホ) ニーカレドニア *New Caledonia* ニーカレドニアはニーヘブリーツ

諸島の南にあり、氣候良好、地味豊饒にして、且つ鑛物に富み、特にニッケルの産多し。本島はフランスの領地にして、囚徒を送るの地に充つるを以て、十分開發の緒に就かず。

(ヘ) フィジー諸島 *Fiji* フィジー諸島はニーヘブリーツ諸島の東にあり、大小二百餘の島嶼より成り、全島火山質にして、氣候は雨多く、河流少からず。高温なれども、風土良好にして、熱帶性植物繁茂し、砂糖果實、木材の産に富む。本島は太

小笠原島も亦た地理上ミクロネシアに属すベきものなり

平洋諸島の中央に位し、且つ良好なる港灣に富めるを以て、北アメリカのウヅンクラーヴーよりオーストラリア及びニューギラントに至る汽船は爰に寄港し、交通の要衝に當る。

三九、ミクロネシア。

(イ) マリアナ *Marianne* (一名ラドロネ) 諸島。マリアナ諸島は小笠原

島の南にあり、其の火山脈は富士火山脈に連る。もとスペイン

インの領地なりしが、其の中最大なるグアム島 *Guam* は近時北ア

メリカ合衆國に讓與し、其の殘餘はドイツに賣り渡したり。
(ロ) ペリユー (一名パヲオ) 諸島及びカロリン諸島。これ等の

諸島はもとスペインの領地なりしが、マリアナ諸島の一部と共に、近時ドイツに賣り渡したり。

(ハ) マーシャル諸島 *Marshall*。マーシャル諸島はカロリン諸島の東に

ありて、同じくドイツ領なり。

其の他、ミクロネシアに屬する諸島は、皆イギリス領なり。

四〇、ポリネシア本部。

Polynesia Proper

甲、北部ポリネシア。

サンドウィッチ諸島、サンドウィッチ諸島はアジア及び北

サンドウィッチ諸島を指してハワカカ諸島と通稱すること多し

アメリカの中間に位し、極めて重要な位置を占め、數多の島嶼、廣き區域に散在し、其の最大島をハワ井と云ひ、大火山

Hawaii

多く、常に熔岩を噴流し、極めて壯觀なり。此の地は氣候炎

熱なれども、良好にして養生に適す。もと獨立國なりしが、

近年北アメリカ合衆國に合併せられ、其の一地方を成すに

至れり。地味豊饒にして、甘蔗糖の産出甚だ多く、我が國人

の在留するもの其の數殆んど六萬に及び、總人口の殆んど

三分の一を占め、皆甘蔗の耕作に使役せらる。首府ホノル

Honolulu

、はオアフ島にあり、我が東洋汽船株式會社の米國航路の

Oahu

汽船は期を定めて、こゝに寄港し、又我が總領事館の設けあ

り。

乙、中部ポリネシア。

マニヒキ及びトケラツ諸島はイギリス領にして、マーキ

Manihiki

Tokelau

Marquesas

サス諸島はフランス領なり。

丙、南部ポリネシア。

(イ) トンガ諸島はフージー諸島の東方にありて、百五十餘

Tonga

の小島より成り、イギリスの保護國にして、土人の王これを

支配す。

(ロ) サモア諸島はトンガ諸島の北方に位する火山島にし

Samoa

太平洋の公
園と稱せら
る

て、近時まで獨立の王國なりしが、遂に大部はドイツ領、殘餘は北アメリカ合衆國領となれり。

(ハ) ソサイチー諸島はサモア島の東方に位し、フランス領なり。火山質にして景色絶佳なり、最大島をタヒチと云ふ。

(ニ) パウモチ(二名チ、アモチ)諸島はソサイチー諸島の東より南東に亘り、八十餘の珊瑚島より成り、極めて低平なるを

以て、別稱をロー諸島と云ふ、フランスの領地なり。

四一、ニーゼーランド。

New Zealand

ニーゼーランドは地理上ポリネシアの一部に屬すべきものなれば、爰に附記す。通常ニーゼーランドはオースト

ラシアの一部として、オーストラリアと共に記すこと多し。(オーストラリアとはオセアニアに於けるイギリス領 *Australasia*)

ニューゼー
ランドの北
東に世界の
一の深さ凡
あり深さ一
尺三萬一千

ニューゼー
ランドは地
文上我が國
と多少類似
せる點あり

地の總稱にして、オーストラリア・タスマニア・ニーゼーランド・フージー及びニューギニアの一部より成るものなり。

ニーゼーランドはオーストラリアの南東に當り、全地球上、ロンドンに對して、對蹠の位置を占め、水半球の極はニー

ゼーランドの附屬なる對蹠島に當る。本島は重もに南北

Antipode

の二大島より成り、輪廓は長靴の如く、イタリーに似たり、但し其の爪先の方向を異にす。山脈は全土を縦貫し、南島に

於ては雪線を抜く的高峰ありて、氷河の現象に富む、北島には火山現象盛んにして、泥火山、間歇泉及び噴氣孔甚だ多し。

ニーゼーランドの河流は皆急流にして、水利多からず。地形狹長にして南北に亘り、且つ高山脈あるを以て、氣候は一

ならず、特に北島は半熱帯の氣候にして、低地に於ては霜雪

を知らず。人民は重もにイギリス人なれども、少數の土人あり、マオリ種と云ふ、多くは北島に住し、好んで文身を施す、



人土マオリ種

其の體格は
良好にして、
智識も高き
ことオース
トラリア土
人の比に非
ざれども、亦
た次第に減
少するの傾向あり。此の地はイギリスの殖民地中重要なものにして、總督を置きてこれを治む。天産は礦物に富

み、金及び石炭の産多し。オーストラリアに於ける如く、穀物及び家畜はすべてヨーロッパより輸入せしものなりしが、今は本島の農産甚だ多く、羊毛及び凍肉の輸出も頗ぶる盛んなり。海底電線はオーストラリアのシドニーに通じ、汽船はオーストラリアへは勿論、ロンドン・サンフランシスコ及びアフリカのケイプタウン等へ定期に往來せり。北島のウェリントン *Wellington* はニュージーランドの首府にして、オークランド *Auckland* は全島第一の都會なり。南島の基督城 *Christchurch* 及びダニデン *Dunedin* 及びクワイアーズタウン *Quartz Town* は共に有名なる都會なり。

最近地理學教科書

外國之部上卷 終

明治三十五年二月一日印刷
 明治三十五年二月四日發行
 明治三十五年三月廿一日訂正印刷
 明治三十五年三月廿四日再版發行

最近地理學教科書(外國之部)

定價
 上卷 金四拾錢
 中卷 金四拾五錢
 下卷 金四拾五錢

東京市麻布區櫻田町三十九番地

山上 萬次郎

東京市京橋區銀座二丁目廿二番地

大日本圖書株式會社

右代表者

專務取締役 宮川保全

東京市京橋區銀座二丁目廿二番地

大日本圖書株式會社

大阪市東區北久太郎町四丁目十七番屋敷

同 支 社

各府縣下特約販賣所

發賣所

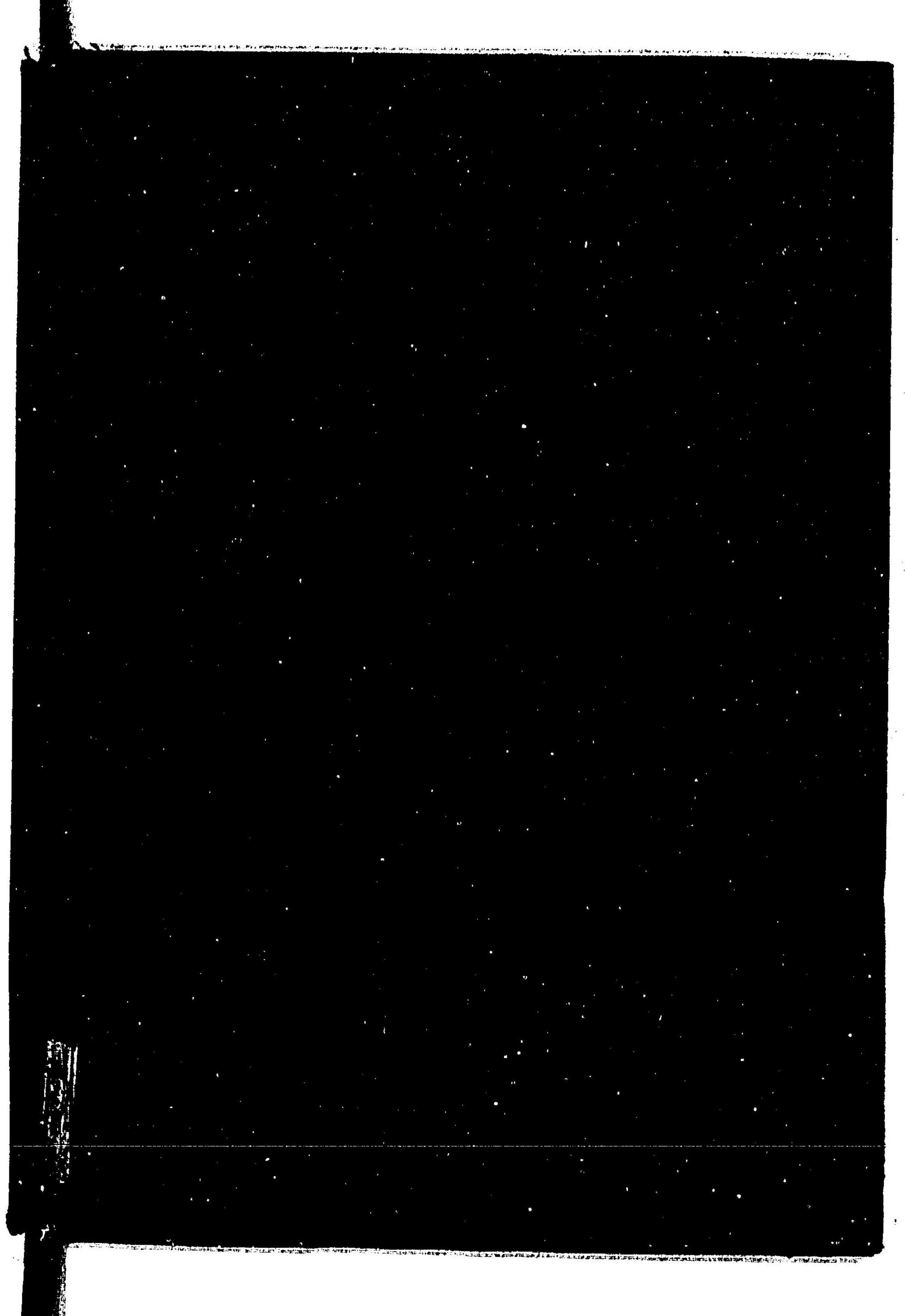


大日本圖書株式會社出版圖書特約販賣所

丸管、若山房、青野、内山、長島、淺見、大倉、林、鶴喜、水野、宮川、山田、高橋、大橋、阪本、金剛、
 穴山、松色、北條館、東海信文社、森江、杉村、中野、二見、**大坂**、松村、梅原、三木、柳原、石井、前川、丸
 管、石田、青岡、岡島、金川、中村、小谷、中川、金尾、此村、田中、北村、木田、**京都**、村上、藤井、松田、
 阿合、若林、梅原支店、**東京**、田沼、丸屋、天野、**大阪**、吉見、藤瀬、菅沼、豐隆、文林堂、**山形**
 大塚、**新潟**、川瀬、片野、**東京**、安屋、關西圖書會社、**長野**、小松、萩原、四澤、曾川、今村、宮坂、
 日新堂、丸山、小林、西川、**山梨**、木田、高橋、是洞、中村、**埼玉**、長島、水野、水村、**千葉**、平野、
 鹿野、高守、朝野、**茨城**、川久、伊沼、鯉井、飯塚、**栃木**、内山、森田、北城、**群馬**、荒井、甲斐山、
 佐藤、**富山**、梅原、藤崎、**石川**、佐藤、文澤堂、**福井**、牧野、五十嵐、紫月、市川、日向、鈴木、白
 崎、**山梨**、成見、藤島、東海林、大澤、**長野**、今泉、伊藤、浦山、**北陸**、小越、笠岡、白鳥、川南、
 池田、入木、松色、山本、山崎、最上谷、**滋賀**、柳田、**愛知**、山川、櫻坂、松田、日原、高橋、四村、電
 高橋、辻、中山、**岐阜**、中山、磯野、**愛知**、熊谷、中井、福浦、石田、木村、**愛知**、木原、**愛知**
 島川、四村、**愛知**、武内、**愛知**、鈴木、原田、兒玉、**愛知**、藤谷、鶴岡、今井、**愛知**、川崎、岡
 山、大庭、安達、**山口**、白銀、小原、藤川、中原、村田、**香川**、宮崎、入江、筒井、**香川**、黒崎、**香川**
 向井、土肥、**徳島**、澤木、**徳島**、宮井、**徳島**、淺野、阿安、**徳島**、健田、宇都宮、吉曾堂、**徳島**
 松井、津野、秋澤、谷、野崎、**愛媛**、藤英堂、安中、**愛媛**、阿内、牧川、**愛媛**、菊竹、石田、藤文社、
高松、長崎、**大分**、甲斐、守田、野俊、梅原、**高松**、青田、久水、**高松**、豐見城、有馬、

(昭和十五年一月四日)

93
4
780



93
78

